

昭和 43 年度

# 地力保全基本調査成績書

[丸瀬布・遠軽地域 遠軽町]

北海道立中央農業試験場

17

## 序

現状における土地生産力は諸種の土壌的阻害要因によつて充分にその地力を発揚できない場合が少くないのみならず、一方では剥脱要因もあつてその地力は消耗低下しつゝある。従つてこれら阻害要因を排除して合理的かつ適切な地力保全の対策を推進し、もつて当面の農業構造改善の基盤整備に資するため、昭和34年より農林省農政局の助成を得て基本的土壌調査分類を実施している。

本調査成積書は昭和43年度に行つた12地域20市町村をとりまとめたもので、こゝにこれを公表し営農安定の資に供する次第である。

現地調査の遂行に際して御協力を得た関係市町村、農業協同組合ならびに農業改良普及所の関係各位に対して、深く感謝の意を表する。

昭和44年3月

北海道立中央農業試験場

和田 忠 雄

## 調査並びに取まとめ方法

本調査は、凡そ100ha以上の集団になつている農耕地および付帯地を調査対象とし、調査および取まとめに当つては、夫々下記の資料に基づいた。

1. 土壤断面調査および現地での営農状況は地力保全対策資料第6号（昭和36年9月、農林省振興局農産課）によつた。
2. 土壤統および区の設定並びに土壤生産力可能性等級基準は、地力保全対策資料第12号（昭和40年3月、農林省農政局農産課）及び水田土壤統設定第1次案（昭和38年12月、農技研化学部土壤第3課）による。

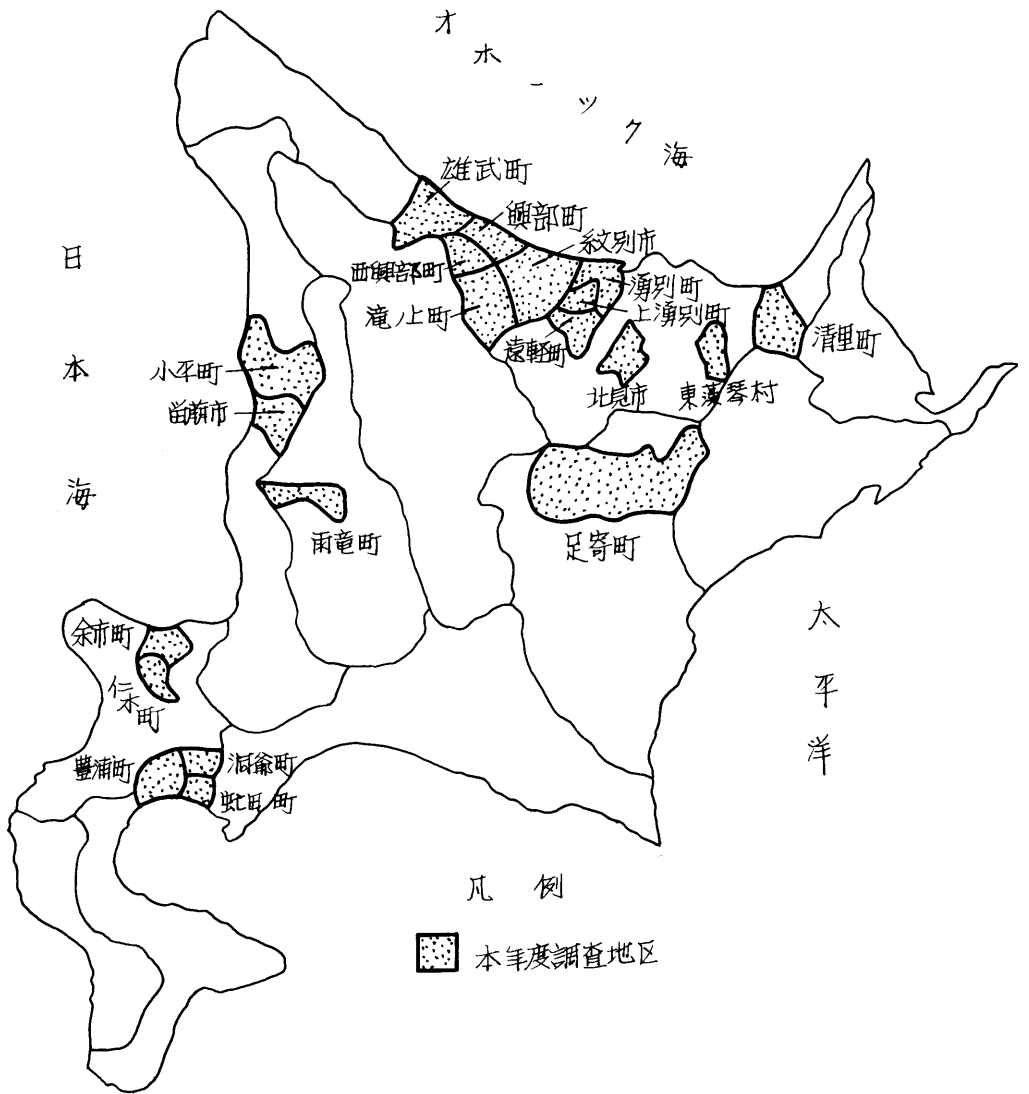
土壤統および土壤区の設定に当つては、北海道農業試験場農芸化学部土壤第1研究室の土性図を参照した。

化 学 部	部 長	長 谷 部 俊 雄
土 壤 改 良 科	科 長	後 藤 計 二
”	第 1 係 長	小 林 荘 司
”	研 究 職 員	水 元 秀 彰
	”	伊 東 輝 行
	”	木 村 清
	”	松 原 一 実
	”	坂 本 宜 崇
		（ 現 在 ・ 天 北 農 試 ）
	第 2 係 長	大 垣 昭 一
	研 究 職 員	小 林 茂
	”	宮 脇 忠
	”	山 本 晴 雄
	”	高 橋 市 十 郎
	”	上 坂 晶 司
	第 3 係 長	高 尾 欽 弥
十 勝 農 試		
土 壤 肥 料 科	研 究 職 員	菊 地 晃 二
	”	関 谷 長 昭
北 見 農 試		
土 壤 肥 料 科	研 究 職 員	秋 山 喜 三 郎

1. 調査地域一覧

調査地域名	該 当 郡 市 町 村 名	農 地 面 積 (調査対象面積) ( ha )		既 調 査 面 積 ( ha )		本 年 度 調 査 面 積 ( ha )	
		水 田	畑	水 田	畑	水 田	畑
北 見	北 見 市	2,497	9,935	-	-	2,497	9,935
丸瀬布・遠 軽	遠 軽 町	460	3,172	-	-	460	3,172
	湧 別 町	329	5,083	-	-	329	5,083
	上湧別町	480	2,962	-	-	480	2,962
紋 別	紋 別 市	68	6,468	-	-	68	6,468
	興 部 町	2	2,943	-	-	2	2,943
	西興部町	-	1,487	-	-	-	1,487
枝幸・雄武	雄 武 町	-	2,794	-	-	-	2,794
滝ノ上	滝ノ上町	522	3,960	-	-	522	3,960
斜 里	清 里 町	1	7,028	-	-	1	7,028
網走湖畔	東藻琴村	138	4,291	-	-	138	4,291
陸 別	足 寄 町	22	10,308	-	-	22	10,308
洞 爺 湖 畔	豊 浦 町	225	2,324	-	1,000	-	1,324
	洞 爺 町	245	2,321	-	-	245	2,321
	虻 田 町	68	1,411	-	-	68	1,411
樺 戸	雨 竜 町	2,482	760	-	-	2,482	760
留 萌	留 萌 市	1,067	792	-	-	1,067	792
	小 平 町	1,505	925	-	-	1,505	925
後 志 北 部	余 市 町	698	2,060	-	-	698	2,060
	仁 木 町	885	1,053	-	-	885	1,053
合 計		11,685	72,077	-	1,000	11,685	71,077

# 調査地区位置図



# 丸瀬布遠軽地域 遠軽町

## 1 地区の概況

### 1) 位置及び調査面積

- (1) 位置 北海道紋別郡遠軽町
- (2) 調査面積 (ha)

郡市町村名	農地総面積				調査対象面積				過年度調	
	水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑
紋別郡遠軽町	460	3,172	—	3,632	460	3,172	—	3,632	—	670
査面積(41)	本年度調査面積				次年度以降調査計画面積				備考	
樹園地計	水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計		
— 670	460	2,502	—	2,962	—	—	—	—		

## 2) 気象

本地区は東紋別地帯に位置し、約20kmでオホーツク海岸に達するため、オホーツク海型気候を呈する。一般に年間を通じて冷涼な気候であるが、降雨量は年間800mm前後で北海道内において最も少ない特徴を有している。このため初夏に晩霜・低温に見舞われることが多く、水稻、豆類に大きな被害を与えることがある。また秋期は一般に好天に恵まれるが同時に初霜が早く、しばしば農作物に大きな被害を与えている。

北海道農業試験場作物部薄荷研究室附設観測所における気象観測成績は次の通りである。

(S28-40年の平均)

項目		月別									
		4	5	6	7	8	9	10	11		
気温 (°C)	平均	5.6	11.5	9.5	19.4	19.6	15.7	9.1	2.4	晩霜	
	最高平均	8.4	18.5	23.3	22.2	25.1	21.2	16.1	6.7	5月5日	
	最低平均	-3.8	3.6	9.9	12.5	14.7	10.5	2.0	-3.2	初霜	
降水量 (mm)	平均	39.7	32.5	106.0	124.4	84.4	174.3	16.8	93.4	10月2日	
	1日最多量	17.1	20.8	25.5	46.7	29.0	40.0	6.0	24.4	積雪量	
湿度(%)		48	40	50	67	65	58	48	57	0.8mm	
風速(w/S)		0.9	1.0	1.6	0.9	1.0	1.0	0.8	1.1	融雪期	
最多風向		W	S	NE	E	NE	WSW	S	NW	4月28日	
日照時数(時)		168.4	170.4	166.3	113.2	125.3	99.5	120.4	65.0		

## 3) 土地条件

### (1) 地形

本調査地区のほぼ中央部を湧別川が流れ、これに北流する瀬戸瀬川、生田原川をそれぞれ地区の南西部、東部において、更に北部を平行に流れる社名淵川を東北部の上湧別町との町境で合流して

おり、これらの流域に低平地が分布し、特に生田原川との合流点西部でその分布は広く、一部に台地が形成されている。また、生田原川の東側及び湧別川、瀬戸瀬川、社名淵川の両側は緩傾斜の台地、あるいは傾斜地となっており、背後は標高400～600mの丘陵性山地に連なっている。

(2) 地質

本地区の地質は道立地下資源調査所発行（昭和33年）の20万分の1北海道地質図によると、基盤は西部において日高系の金山層に對比されるもので黒色粘板岩を主に輝緑凝灰岩を混じえ、上部に砂岩層をのせている。また中央部から東部は中生代白亜紀の湧別層群で、砂岩、頁岩及びこれらの互層よりなる。更に社名淵川を中心として新第三紀の社名淵層が分布し、この層の上部は凝固度の低い凝灰岩と火山岩礫、中部に泥質、下部は礫岩と火山岩礫のようである。そして湧別層と社名淵層を貫ぬいて流紋岩が広く噴出し、また社名淵川流域と東部に玄武岩が噴出しており、西部には安山岩が出現している。また湧別川、社名淵川、生田原川、瀬戸瀬川等の河川流域に沖積地が分布し、湧別川の流域には洪積台地が発達している。更に丘陵地と低平地の接触部には丘陵地を開析して堆積した扇状地が多く見られる。

(3) 侵蝕状況

本調査区は河川流域の一部低平地を除き、傾斜地が多く、かつ礫質あるいは下層に密層を存在するものであつて、細流侵蝕が発生し、ガリーが生成されている。特に湧別川流域の段丘上に懸著である。

(4) 交通

市街附近の低平地は号線が発達し、また河川に沿つて4本の道道が設けられており、それを中心として町道が布設されている。しかし山間部は整備不良の箇所があり、不便なところがある。

4) 土地利用及び営農状況

遠軽町の状況は次の通りである。

a 経営型態

	農家数			農業 (二五〇日以上) 従事者 数	雇用 労働者 (常雇のみ) 数	土地			草 (永年牧草地を含む) 地 計	畜									
	新 専 業	新 兼 業	計			耕地				乳用牛		馬	豚	わ と り	羽				
						田 ヘクタール	畑 ヘクタール	樹 園地 ヘクタール		飼 養 農 家 数	頭 数								
総数	356	280	636	1,486	14	383.35	2,047.07	6.03	366.52	319	2,013	524	1,652	15,117					
経営 型態 別	酪農 31	混同 31	田作 45	畑作 93	畑作 417	188	63	251	652	2	134.90	1,090.76	2.45	255.94	251	1,821	225	152	3,127
	12	33	45	80	3	29.91	159.90	0.60	10.22	6	19	42	1,188	5,881					
	50	43	93	210	1	82.19	29.25	0.43	4.58	7	17	22	49	2,270					
	75	110	185	417	5	105.30	209.21	1.18	22.90	22	70	71	99	1,858					
						31.20	557.68	1.37	72.88	33	95	154	164	3,681					

ド 農家数

(昭和41年5月1日現在)

		新専用・新兼業区分		
		計	新専業	新兼業
総数		636戸	356戸	280戸
経営耕地規模別	10ha ~ 15ha	2	2	1
	7.5 ~ 10	20	16	4
	5 ~ 7.5	131	93	38
	3 ~ 5	264	173	91
	1 ~ 3	210	70	140
	以下 ~ 0.1	9	2	7

シ 動力耕うん機、農用トラクター所有農家数

		動力耕うん機			農用トラクター		
		個人所有		共有	個人所有		共有
		農家数	台数		農家数	台数	
総数		96	98		5	5	
経営耕地規模別	10ha ~ 15ha	2	2	-	-	-	-
	7.5 ~ 10	6	6	-	1	1	-
	5 ~ 7.5	28	29	1	3	3	-
	3 ~ 5	44	45	11	-	-	-
	1 ~ 3	16	16	1	1	1	-

ド おもな農作物と作付面積と実収

	水稲	小麦	大豆	小豆	菜豆	ジャガイモ	トウモロコシ	ビート	はつか
作付面積 (ha)	369	87	64	93	161	161	91	209	80
生産量 (ト)	116	235	125	102	219	3,787	256	5,418	4
ヘクタール量 (kg)	315	2,700	1,950	1,100	1,350	22,680	2,800	25,680	5
平年ヘクタール収 (kg)	2,670	1,920	1,500	1,510	1,580	19,560	2,540	24,460	50



e 家畜飼養家数と頭、羽数

		牛											
		飼養頭数区分別農家数						飼養養頭数					
		頭 1 ~2	頭 3 ~4	頭 5 ~9	頭 10 ~14	頭 15 ~19	頭 20 ~29	牛飼養 実農家 数	めす		おす		牛飼養 総頭数
		24カ 月未 満	24カ 月未 満	24カ 月未 満	24カ 月未 満	頭	頭		頭	頭			
戸	戸	戸	戸	戸	戸	戸	戸	頭	頭	頭	頭	頭	
総 数		51	68	138	51	9	2	319	782	1218	2	1	2013
経営 耕地 規模 別	10ha~15ha	-	-	-	1	-	1	2	10	23	-	-	33
	7.5 ~10	-	1	5	7	4	1	18	90	116	-	-	206
	5 ~ 7.5	5	11	54	35	4	-	109	324	549	-	1	874
	3 ~ 5	28	42	71	8	1	-	150	318	453	2	-	773
	1 ~ 3	18	14	8	-	-	-	40	50	77	-	-	127
1ha以下		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

馬		豚		めん羊		にわとり			
飼養 農家数	飼養 頭数	飼養 農家数	飼養 頭数	飼養 農家数	飼養 頭数	飼養 農家数	飼養羽数		
							6カ月 未満	6カ月 以上	計
戸	頭	戸	頭	戸	頭	戸	羽	羽	羽
498	524	221	1,652	61	81	281	507	14,610	15,117
1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
19	22	3	5	2	3	6	-	260	260
122	134	41	113	16	21	55	300	3,017	3,317
239	248	97	733	33	44	142	-	6,756	756
117	119	75	662	10	13	73	7	3,497	3,504
-	-	5	139	-	-	5	200	1,080	1,280

f 乳用牛飼養頭数別畜舎、ミルクカー、サイロ所有農家数

(昭和40年2月1日現在)

	実農家数	畜舎構造別		ミ ル カ		塔型サイロ		バンカーサイロ		トレンチサイロ	
		耐寒	非耐寒	農家数	台数	農家数	基数	農家数	基数	農家数	基数
総 数	319	46	293	74	75	281	480	14	18	49	62
乳用牛飼養頭数別	1頭～2頭	51	1 50	-	-	37	37	1	2	4	7
	3頭～4頭	68	3 64	-	-	50	71	3	4	12	16
	5頭～9頭	138	18 130	44	44	128	227	3	4	25	29
	10頭～14頭	51	19 40	19	19	62	118	5	6	8	10
	15頭～19頭	9	5 7	9	10	11	21	2	2	-	-
20頭～29頭	2	- 2	2	2	3	6	-	-	-	-	

本町は東紋別地帯で酪農経営が全農家のほぼ40%で混同経営を合すると約半数が有畜農業を営んでいる。1戸当りの平均耕作面積は約4ha弱で市街地周辺の湧別川流域では、水田と野菜栽培が行なわれ、また畑作も多い。その他の台地、丘陵地は概ね酪農、混同、畑作である。本町はしばしば冷害凶作に見舞われ、昭和31年に集約酪農地域に指定されて以来家畜飼養頭数は漸増し、乳牛は2千頭余りで1戸当り6頭強である。また最近では養鶏も盛んとなり、副業的なものから大羽数飼養に変わりつつある。一方畑作では作付作物が多種にわたり、かつ経営面積の減少により経営は不安定で、最近では野菜栽培、有畜農業を主にした多角経営を振興している。

2 土壌の類型区分及び説明

1) 土壌統及び土壌区一覧

(1) 土壌統一覧

水 田

土 壤 統 名	色 層 序	腐 植 層 序	礫層、砂礫層、礫を混在する砂層	酸化沈積物	土 性		泥炭	黒泥	グライ	母 材 堆 積 様 式
					表 土	次 層				
豊 里	YR/YR	表層腐植層	なし	あり	強粘質	強粘質	なし	なし	なし	洪積 半固結水成岩
清川東	YR/YR	表層腐植層	なし	あり	"	壤 質	"	"	"	水積 (河成堆積)

## 畑

土壌統名	色層序	腐植層序	礫層、砂礫層、礫を混在する砂層	酸化沈積物	土性		母材 堆積様式
					表土	次層	
千代田西	YR/YR	表層腐植層	なし	なし	強粘質	強粘質	残積・固結火成岩
白竜	"	表層腐植層なし	あり	"	粘質	壤質	" 半固結水成岩
弥生	"	表層腐植層	なし	"	強粘質	粘質	" "
柏	"	"	あり	"	粘質	"	" "
向遠軽	"	"	なし	"	"	強粘質	洪積 "
学田	"	"	"	あり	強粘質	"	" "
弥生東	"	"	"	なし	"	"	" (扇状堆土) "
若咲内	"	表層腐植層なし	あり	あり	粘質	粘質	" ( " ) 固結火成岩
福路	"	表層腐植層	"	なし	"	壤質	水積(河成)・半固結水成岩
遠軽中央	YR/	表層腐植層なし	"	なし	壤質	礫質	" ( " ) "
湯の里	"	表層腐植層	"	"	強粘質	"	" ( " ) "
留岡	YR/GY	表層腐植層なし	なし	あり	"	強粘質	" ( " ) "
隠沢	YR/YR	"	あり	"	壤質	壤質	" ( " ) 固結火成岩
栄野	"	表層腐植層なし	あり	なし	"	"	崩積 半固結水成岩
千代田	YR/Y	表層腐植層	なし	あり	強粘質	粘質	" 固結火成岩
弥生西	YR/YR	"	あり	なし	粘質	"	" "
社名淵	"	"	"	"	"	壤質	" 半固結水成岩
清川	YR/	"	"	"	強粘質	礫質	水積(扇堆)"
見晴	YR/R	表層腐植層なし	なし	"	"	強粘質	" ( " ) 固結火成岩
奥社名淵	YR/YR	"	"	あり	粘質	粘質	" ( " ) 半固結水成岩

## (2) 土壤区一覽

## 水 田

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式	面 積 (ha)	備 考
豊 里-豊 里	IIprfni	302	農牧適地面積 426 (ha)
清川東-清川東	IIpfn	158	251

## 畑

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式	面 積 (ha)	備 考
千代田西-千代田西	IItdgpfne	103	農牧適地面積 256 (ha)
白 竜-白 竜	IItdnis	16	30
弥 生-弥 生	IIIdtpfse	25	57
柏 - 柏	IIIdltpnise	23	43
向遠軽-向遠軽	IIpf	15	16
学 田-学 田	IIIdtpldwfna	59	73
弥生東-弥生東	IItdpwfne	35	49
若 咲 内- 1	IItdpwfne	340	563
" - 2	IIIdgieIItpwfns	151	498
福 路- 1	IItdfni	504	997
" - 2	IIIdiIItf	60	65
遠軽中央-遠軽中央	IIIdiIIt(w)	451	738
湯 の 里-湯 の 里	IIIdiIItg(w)	265	517
留 岡-留 岡	IIIdltpna	34	73
隠 沢-隠 沢	IItdw	104	197
栄 野-栄 野	IIIdltpfnise	388	1,695
千代田-千代田	IIIdiIItpwse	23	51
弥生西-弥生西	IIIdtpfs	48	135
社名淵-所名淵	IIIdilItpse	257	730
清 川-清 川	IIIdgieIItpse	187	372
見 晴-見 晴	IIIdln	24	30
奥社名淵-奥社名淵	IIIdiIItfnse	60	164

2) 土壤統説明

水 田

豊 里 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ12cm前後で腐植含量6%内外、土性はLiCが多い。色は10YRで明度3~5、彩度2~3。発達弱度の細粒状構造もしくは均質連絡結状である。糸根状斑含む。ち密度10以下で頗る疎、PH(H<sub>2</sub>O)5前後。層界平坦判然。

第2層は厚さ5cm前後で腐植含量5%内外、土性はLiCを主とする。色は10YR~2.5Yで明度3~5、彩度1~2。均質連絡結状構造で糸根状斑含む。ち密度15内外で疎。PH(H<sub>2</sub>O)5前後。層界は平坦判然である。(鋤床層)

第3層は厚さ15cm前後で腐植含量1%内外、土性はLiC~HCである。色は10YR~2.5Yで明度7~8、彩度1~2。発達弱度の塊~細塊状構造で、柱状を呈するものもあり、雲状斑含む。ち密度20前後で中、PH(H<sub>2</sub>O)5.2、層界は平坦判然である。

第4層は厚さ20cm前後で腐植を欠く。土性はCLを主とする。色は10YRで明度7~8、彩度1のものが多い。概ね角柱状構造を呈する。雲状斑含む。ち密度25~28で密。PH(H<sub>2</sub>O)6前後、層界は平坦漸変である。

第5層は厚さ15cm内外で腐植を欠く。土性はLiCを主とする。色は10YRで明度8、彩度1~2。均質連絡結状で角柱を示すものもある。斑鉄含む。ち密度25~28で密。PH(H<sub>2</sub>O)6前後。下層とは平坦で漸変する。

第6層は概ね65cm以下で腐植を欠き、土性はCL~C(農学会法触感)が多い。均質連絡結状を呈し、角柱のものもある。ち密度30~32で甚密である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 紋別郡遠軽町字豊里 試坑No32

第1層	0~12cm	腐植に富む黄褐灰(10YR5/2)のLiC、発達弱度の細粒状構造~均質連絡結状、褐色の糸根状斑を含む。ち密度9で頗る疎。PH(H <sub>2</sub> O)5.2 調査時の湿り湿、層界平坦判然
第2層	12~17cm	腐植を含む黄褐灰(10YR5/1)のLiC、均質連絡結状で赤褐色の糸根状斑を含む。ち密度16で疎、PH(H <sub>2</sub> O)5.3、調査時の湿り湿、層界平坦判然(鋤床層)
第3層	17~30cm	腐植を欠く淡黄灰(2.5Y8/2)のLiC、発達弱度の細塊状構造と柱状構造の複合で褐~明黄褐の雲状斑富む。ち密度23で中、PH(H <sub>2</sub> O)5.2、調査時の湿り湿、層界平坦漸変。
第4層	30~51cm	腐植を欠く淡黄褐灰(10YR8/1)のCL、角柱状構造で細孔若干含み、明黄褐の雲状斑を含む。ち密度28で密。PH(H <sub>2</sub> O)6.0、調査時の湿り湿。層界平坦漸変

第5層	51~67cm	腐植を欠く淡黄褐灰(10YR8/2)のLiC。均質連結状を呈し、明黄褐の雲状斑をわずかに含む。ち密度28で密、PH(H <sub>2</sub> O)6.3、調査時の湿り湿。層界平坦漸変
第6層	67cm以下	腐植を欠く淡黄褐灰(10YR8/1.5)のCL(農学会法触感)。均質連結状を呈する。ち密度31で甚密。調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

紋別郡遠軽町字豊里 試坑No32

層位	採取部位cm	水分%	粒径組成%				土性	現地容積重g	全炭素%	全窒素%	炭素率%	腐植%	PH	
			粗砂	細砂	シルト	粘土							H <sub>2</sub> O	KCl
1	0~12	4.1	5.2	23.7	32.6	38.5	LiC	143	3.45	0.343	10.1	5.7	5.2	4.3
2	12~17	3.5	5.6	25.7	30.2	38.5	LiC	171	2.61	0.264	10.2	4.5	5.3	4.4
3	17~30	2.6	5.9	41.1	26.5	26.5	LiC	183	0.30	0.047	6.3	0.5	5.2	3.9
4	30~51	2.4	9.0	36.7	32.9	21.4	CL	-	-	-	-	-	6.0	3.7
5	51~67	3.2	12.0	31.0	30.1	29.9	LiC	-	-	-	-	-	6.3	3.6

層位	置換酸度Y <sub>1</sub>	塩基置換容量me/100g	置換性塩基me/100g			石灰飽和度%	磷酸吸収係数	乾土効果	30°C NH <sub>3</sub> -N発生量mg/100g		有効態磷酸mg/100g	遊離酸化鉄%
			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O				乾土	湿土		
1	5.0	20.7	10.0	1.2	0.2	48	1.004		16.5		34.4	0.73
2	3.3	18.4	9.4	1.2	0.1	51	1.036		14.0		17.0	1.04
3	17.8	12.9	4.4	0.4	0.1	34	593		-		2.7	-
4	18.5	14.9	4.4	1.6	0.1	30	535		-		2.9	-
5	13.0	15.3	6.8	2.4	0.1	44	596		-		3.7	-

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては清川東統があるが堆積様式が異なるので区別される。

A-3 母材 半固結水成岩(凝灰岩・砂岩)

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地形 標高70~90mの河岸段丘

C 気候 年平均気温 5.8°C 年降水量 860.7mm

D 植生及び利用状況

殆んど耕地化され、水田作付地帯である。

E 農業上の留意事項

加里肥料の増施

F 分布 北海道紋別郡遠軽町字豊里、向遠軽、福路の一部

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
豊 里 - 豊 里	llprfn

② 土壌区別説明

豊 里 統 - 豊 里 区

示 性 分 級 式 (水田)

土 壤 生 産 力 可 能 性 厚 等 級	表 有 効 土 層 の 厚 さ	表 土 の 深 さ	表 土 の 粘 着 性	耕 転 土 の 粘 着 性	表 土 の 乾 透 性	表 土 の 乾 透 性	湛 水 下 50 cm の 最 高 土 密 度	(作 土 下 50 cm の 還 元 性	(酸 化 性 機 物 含 量 度	(易 遊 離 化 性	(グ ラ ン 地 化 乾 湿 性 度	(土 透 保 湿 性 度	(自 然 潤 肥 沃 力 度	(保 固 層 の 基 礎 力 度	(養 分 換 換 性 量 否	(置 換 性 量 度)	(有 効 態 量 度)	(微 酸 量 度)	(障 害 物 質 の 有 害 無 害 性)	(災 害 物 理 的 障 害 の 危 険 度)	(地 冠 す べ り の 危 険 度)																				
	t	d	g	p		ℓ		r		w		f		n					i		a																				
(稀) II	I	I	I	II	3	3	2	I	1	1	II	3	3	2	-	-	-	-	II	1	2	2	II	1	2	3	1	2	-	1	2	I	1	1	I	1	1				
(畑) II	II	II	I	II	3	3	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	II	3	2	2	II	1	2	2	II	1	2	3	1	-	-	1	2	I	1	1	I	1
団 単 地 独																																									
簡略分級式    llprfn																																									

(畑) IItdpwn

A 土壌区の特徴

この土壌区は豊里統に属する。表土の厚さは15~20cmで稍深く、また有効土層は70cm前後で中庸である。表土の土性は微粒質で粘着性強く、湛水状態における透水性は小である。易分解性有機物含量多く、遊離酸化鉄含量は少なく、根系障害のおそれがある。

畑作利用の場合は保水性中～やや大で一時的に過湿となるおそれがある。

保肥力は大で、固定力中庸、塩基状態も中で自然肥沃度は中位である。養分は加里が乏しく、苦土は中庸で有害物質による障害性なく、災害性も少ない。

#### B 植生及び利用状況

概ね水田（一毛作）として利用され所々に豆類、根菜類の畑地が存在する。

#### C 地力保全上の問題点

下層堅密のため還元化が進みやすいので排水を完全とすること、また加里、鉄が不足しているので加里肥料の増施、含鉄資材を施用することが望ましい。区画拡大、大型機械の運行は可能であるが、土性が微粒質で粘着性強いため、スリップのおそれがある。

#### D 分布

北海道紋別郡遠軽町字豊里、福路の一部

記載責任者

宮 脇 忠（北海道立中央農業試験場）

日 付

昭和44年3月31日

清 東 川 統

### (1) 土壌統の概説

#### A 土壌統の特徴

##### A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm前後で腐植含量6%内外、土性はLiCを主とする。色は7.5YRで明度2、彩度1～2のものが多い。発達弱度の細粒状構造もしくは均質連結状である。ち密度1.0前後で頗る疎、PH(H<sub>2</sub>O)5.5前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第2層は厚さ5cm前後で腐植含量5～6%、土性はLiCを主とする。色は7.5YRで明度2、彩度1～3のものが多い。発達弱度の細粒状構造もしくは均質連結状である。脈状の酸化沈積物を含む。ち密度1.5前後で疎。PH(H<sub>2</sub>O)5.5前後、下層との境界は平坦判然である。

第3層は厚さ15cm前後で腐植含量2%内外、土性はSLが多い、色は7.5YRで明度4、彩度2～3。発達中度の細粒状～細塊状構造で細孔に富む。ち密度1.7前後で疎。PH(H<sub>2</sub>O)6前後。下層との境界は平坦判然である。

第4層は厚さ15cm前後で腐植を欠き、土性はSLを主とする。色は7.5YRで明度4、彩度3～4。発達中度の細粒状構造と細塊状構造で細孔に富む。ち密度1.7前後で疎。PH(H<sub>2</sub>O)6前後、下層との境界は平坦判然である。

第5層は厚さ15cm前後、腐植を欠き、土性はL（農学会法触感）を主とする。色は1.0YRで明度4、彩度3のものが多い。発達弱度の細塊状構造で小孔に富む。ち密度は1.6～2.0で疎～中。下層との境界は平坦判然である。

第6層は厚さ10cm前後、腐植を欠き、土性はS（農学会法触感、細砂）を主とする。色は1.0YRで明度4、彩度3のものが多い。単粒で、ち密度1.5で疎、下層との境界は平坦判然である。

第7層は概ね7.5cm以下で腐植を欠き、土性はSL（農学会法触感）を主とする。色は1.0YRで明度4、彩度4のものが多い。発達弱度の細塊状構造で細～小孔に富む。ち密度1.4で疎である。



代表的断面形態

(所在地) 紋部郡遠軽町字清川 試坑No 33

第1層	0~15cm	腐植に富む黒 (7.5 YR 2/1) の LiC、発達弱度の細粒状構造もしくは均質連結状、ち密度 9 で頗る疎、PH (H <sub>2</sub> O) 5.5。調査時の湿り湿、層界平坦明瞭
第2層	15~20cm	腐植に富む黒褐 (7.5 YR の LiC、均質連結状もしくは弱度の細粒状構造、脈状斑あり、ち密度 15 で疎、PH (H <sub>2</sub> O) 5.5 調査時の湿り湿、層界平坦判然。
第3層	20~34cm	腐植を欠く褐灰 (7.5 YR 4/2) の SL、発達中度の細粒状構造で細孔富む。ち密度 17 で疎、PH (H <sub>2</sub> O) 5.9 調査時の湿り湿、層界平坦判然。
第4層	34~49cm	腐植を欠く褐 (7.5 YR 4/3) の SL、発達中度の細粒状構造で細孔富む。ち密度 17 で疎、PH (H <sub>2</sub> O) 6.1 調査時の湿り湿。層境平坦判然。
第5層	49~64cm	腐植を欠く灰黄褐 (10 YR 4/3) の L (農学会法触感)、発達弱度の塊状構造で小孔富む。ち密度 17 で疎。調査時の湿り湿~半湿。層界平坦判然。
第6層	64~74cm	腐植を欠く灰黄褐 (10 YR 4/3) の S (細砂)、単粒を呈し、ち密度 15 で疎、調査時の湿り湿~半湿。層界平坦判然。
第7層	74cm以下	腐植を欠く褐 (10 YR 4/4) の SL、発達弱度の塊状構造で細孔富む。ち密度 14 で疎。調査時の湿り湿~半湿。

代表的断面の分析成績

紋別郡遠軽町字清川 試坑No 33

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率 %	腐植 %	PH	
			粗砂	細砂	シルト	粘土								H <sub>2</sub> O	KCl
1	0~15	2.7	12.0	34.0	25.1	28.9	LiC	154		3.70	0.336	11.0	6.2	5.5	4.4
2	15~20	5.1	14.7	33.9	24.9	26.5	LiC	154		3.49	0.309	11.3	5.7	5.5	4.7
3	20~34	2.0	16.9	49.8	19.6	13.7	SL	169		1.01	0.118	8.5	1.7	5.9	4.8
4	34~49	1.3	11.3	65.5	14.1	9.1	SL	167		-	-	-	-	6.1	4.7

層位	置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	乾土効果	30°C NH <sub>3</sub> -N 発生量 mg/100g		有効態磷酸 mg/100g	遊離酸化鉄 %
			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O				乾土	湿土		
1	3.3	26.7	12.5	0.8	0.2	47	1.110		10.9		15.4	1.54
2	0.8	29.1	16.7	1.0	0.3	57	1.074		11.4		tr	2.17
3	0.5	14.5	9.5	0.2	0.4	66	723				2.0	
4	0.5	11.0	7.5	0.4	0.3	68	577				1.8	

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する統としては豊里統があるが、豊里統とは堆積様式が異なるので区別される。

A-3 母材 半団結水成岩 (凝灰岩・砂岩)

A-4 堆積様式 水積 (河成)

B 地形 低地

C 気候 年平均気温 5.8℃ 年降水量 860.7mm

D 植生及び利用状況

殆んど耕地化されており、その大部分は水田で、一部畑作物、ソ菜が作付されている。

E 農業上の留意事項

加里肥料の増施

F 分布

北海道紋別郡遠軽町字清川

調査及び記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)  
年月日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
清川東-清川東	llpfn

② 土壌区別説明

清 川 東 統 - 清 川 東 区

示 性 分 級 式 (水田)

表有表耕	(湛)	(酸)	(易遊)	(土)	(自)	(養)	(障)	(災)
効土土の層の厚深	表表表	作作	易遊	透保	然	置有微	有物	增地
土土のののの	表表表	作作	易遊	透保	然	置有微	有物	增地
の層のののの	表表表	作作	易遊	透保	然	置有微	有物	增地
厚深	表表表	作作	易遊	透保	然	置有微	有物	增地
ささ量易	表表表	作作	易遊	透保	然	置有微	有物	增地
t d g p	表表表	作作	易遊	透保	然	置有微	有物	增地
① ll	表表表	作作	易遊	透保	然	置有微	有物	增地
② ll	表表表	作作	易遊	透保	然	置有微	有物	增地

簡略分級式 llpfn

① lltpfn

## A 土壤区の特徴

この土壤区は清川東に属する。表土の厚さは20cmで中庸で有効土層は1m以下で深い。表土の土性は微粒質で粘着性强いが、湛水状態における透水性は中庸である。易分解性有機物含量は中庸で遊離の酸化鉄含量多く、根系障害のおそれは殆んどない。畑作利用の場合は透水性良く、保水性中～やや大で過湿のおそれはない。

保肥力大で固定力は中庸、土層の塩基状態は中～やや大で自然肥沃度は中位である。養分は加里に乏しく、苦土は中庸で他は多い。酸度も表土で中程度、下層は弱い。

有害物質による障害性はなく、災害性も特にない。

## B 植生及び利用状況

殆んど水田（一毛作）で、一部に畑地がある。

## C 地力保全上の問題点

加里を増施する必要がある。また熔磷等の苦土入りの肥料を使用することが望ましい。区画拡大、大型機械の運行は可能である。

## D 分布

北海道紋別郡遠軽町字清川

記載責任者	宮 脇 忠（北海道立中央農業試験場）
日 付	昭和44年3月31日

畑

千 代 田 西 統
-----------

## (1) 土壤統の概説

### A 土壤統の特徴

#### A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm程度で腐植含量7%程度、土性はLiCが主である。色は7.5YRで明度3、彩度4。半風化中～小半角礫（安山岩）を含み、発達中程度の細粒状構造で、ち密度は1.5前後で中。PH (H<sub>2</sub>O) 5.5前後。下層との境界平坦判然である。

第2層は厚さ15～20cm、腐植を欠き、土性はLiCを主とする。色は7.5YRで明度4、彩度6。礫なく、発達弱度の細塊状構造で細孔に富む。ち密度1.5～2.0で中、PH (H<sub>2</sub>O) 5.6前後。下層との境界平坦漸変である。

第3層は厚さ30～35cm腐植を欠き、土性はLiCを主とする。色は5YRで明度5、彩度6。半風化中～小半角礫を含み、発達弱度の細塊～塊状構造で細孔を含む。ち密度2.0～2.5で稍密。PH (H<sub>2</sub>O) 5.1前後。下層との境界平坦漸変である。

第4層は厚さ30cm程度で腐植を欠き、土性はSCが主である。色は5YRで明度5、彩度6。半風化中～小半角礫を含み、発達弱度の細塊状もしくは2～5cmの角柱状構造で細孔に富む。ち密度2.0～2.5で稍密。PH (H<sub>2</sub>O) 5.1前後。下層との境界漸変である。

第5層は概して100cm以下で明褐色の基岩礫層よりなる。

代表的断面形態

(所在地) 紋別郡遠軽町字千代田 試坑625

第1層	0~20cm	腐植に富む暗褐(7.5YR3/4)のLiC、半風化安山岩礫を含む。発達中度の細粒状構造、ち密度1.5で中、PH(H <sub>2</sub> O)5.5、調査時の湿り半乾、層界平坦判然。
第2層	20~37cm	腐植を欠く褐(7.5YR4/6)のLiC。発達弱度の細塊状構造、細孔富む。ち密度1.8で中、PH(H <sub>2</sub> O)5.6、調査時の湿り半乾、層界平坦漸変。
第3層	37~70cm	腐植を欠く赤褐(5YR5/6)のLiC、半風化、安山岩礫を含む。発達弱度の細塊~塊状構造。細孔含む。ち密度2.3で稍密、PH(H <sub>2</sub> O)5.1、調査時の湿り半乾。層界平坦漸変。
第4層	70~100cm	腐植を欠く赤褐(5YR5/6)のSC、半風化、安山岩礫を含む。発達弱度の細塊状構造と中角柱構造、細孔富む。ち密度2.2で中。PH(H <sub>2</sub> O)5.1。調査時の湿り半乾。層界平坦漸変。
第5層	100cm以下	明褐色の固結基岩礫層

代表的断面の分析成績

紋別郡遠軽町字千代田 試坑625

層位	採助部位cm	水分%	粒径組成%				土性	現地容積重g	真比重	全炭炭素%	全窒素%	炭素率	腐植%
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	5.1	10.5	24.0	40.3	25.3	LiC	1.24		4.28	0.342	12.5	7.0
2	20~37	6.1	10.9	22.6	34.3	32.2	LiC	1.53		-	-	-	-
3	37~70	8.5	11.2	27.9	29.0	31.9	LiC	1.53		-	-	-	-
4	70~100	9.0	34.1	21.4	18.4	26.1	SC			-	-	-	-

層位	PH		置換酸度Y <sub>1</sub>	塩基置換容量me/100g	置換性塩基me/100g			石灰灰飽和度%	磷酸吸収係数	有効態磷酸mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.5	4.8	1.5	5.18	14.4	5.0	0.5	45	1.111	tr
2	5.6	3.9	40.8	20.9	5.1	2.8	0.7	19	1.359	tr
3	5.1	3.9	46.8	18.0	4.5	1.7	0.8	16	1.555	tr
4	5.1	4.0	43.0	19.5	4.6	5.0	0.2	16	1.585	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては千代田統があるが堆積様式が異なるので区別される。

A-3 母材 固結火成岩(安山岩)

A-4 堆積様式 残積

B 地形 標高400m内外の丘陵地

C 気候 年平均気温 5.8℃ 年降水量 860.7mm

D 植生及び利用状況

E 農業上の留意事項

有機物施用、除礫、土改資材投入

F 分布 北海道紋別郡遠軽町字千代田の1部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
千代田西-千代田西	lltdgpfne

② 土壌区別説明

千 代 田 統 一 千 代 田 区

示 性 分 級 式 (細)

土 生 産 力 可 能 性 等	表 土 の 層 の 礫 深	表 土 の 層 の 礫 含	表 土 の 粘 土 着 性	表 土 の 乾 硬 性	透 水 性	保 水 性	自 然 肥 沃 度	養 分 分 類 の 基 本 状 態	置 換 性 石 灰 量	有 機 酸 量 加 磷 要 素 度	障 害 物 質 の 有 無	災 害 的 障 害 無 性	傾 倒 の 危 険 度	傾 倒 の 傾 斜 度	侵 蝕 耐 性	侵 蝕 耐 性																			
	td	g	p		w		f	n				i	a	s		e																			
II	II	II	II	3	2	2	I	1	2	(2)	II	1	2	2	II	1	1	2	3	1	2	I	1	1	I	1	1	I	1	-	-	II	2	2	1
簡略分級式		lltdgpfne																																	

A 土壌区の特徴

この土壌区は千代田西統に属する。表土の厚さは20cm前後、有効土層は約1mで共に中庸である。表土の土性は微粒質で粘着性稍強く、耕起、砕土はやや困難である。透水性はやや大きく、保水性中庸で過湿のおそれは少ない。

肥力大、固定力小、塩基状態中庸で自然肥沃度は中位である。養分は有効態磷酸に乏しく、加里中庸で、他のものは多い。酸度も中程度であるが次層以下は極めて強い。

特殊な障害性、災害性はなく、地形は波状性の丘陵地で侵蝕のおそれがある。

B 植生及び利用状況

大部分放牧地、採草地で、一部開墾～抜根中のところもある。

C 地力保全上の問題点

地表に散在する石礫は極力除くことが望ましい。磷酸に極めて不足しており、下層は強酸性であるので、石灰、熔燐等の改良資材を投入する必要がある。

また有機物の施用を励行し、地力の維持増進に努めること。

D 分布

北海道紋別郡遠軽町字千代田の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)  
日 付 昭和44年3月31日

白 竜 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm程度で腐植含量3～4%、土性はCLを主とする。色は10YRで明度3～4、彩度3～5。発達弱度の細粒状構造で細孔に富む。ち密度1.2～1.7で中。PH (H<sub>2</sub>O) 5.3前後。下層との境界平坦判然である。

第2層は厚さ30～35cmで、腐植を欠き、土性はLが主である。色は10YRで明度3～5、彩度3～5。砂岩の半風化半角礫を含む。発達中度の塊状と弱度の細塊状構造で細孔に富む。ち密度は2.4前後で稍密。PH (H<sub>2</sub>O) 6前後。下層との境界平坦漸変である。

第3層は45～50cm以下で、褐色の半固結基岩礫層である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 紋別郡遠軽町字白竜 試坑No.1

第1層	0～15cm	腐植を含む暗褐 (10YR 3/4) のCL、発達弱度の細粒状構造、細孔に富み、ち密度1.5で中。PH (H <sub>2</sub> O) 5.3。調査時の湿り半乾。層界平坦判然。
第2層	15～47cm	腐植を欠く褐 (10YR 4/4) のL。発達中度の塊状と弱度の細塊状構造で細孔に富む。ち密度2.4で稍密。PH (H <sub>2</sub> O) 5.7。調査時の湿り半乾。層界平坦漸変。
第3層	47cm以下	砂岩の半風化礫よりなる礫層

代表的断面の分析成績

紋別郡遠軽町字白竜 試坑61

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	現地容積重 $g$	真比重	全炭素 <sup>※</sup> %	全窒素 <sup>※</sup> %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~15	3.0	13.3	34.5	34.3	17.9	CL			2.03	0.214	9.5	3.4
2	15~47	4.6	19.0	36.4	29.7	14.9	L			-	-	-	-

層位	PH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収 係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.3	4.5	1.5	16.6	9.4	1.2	0.4	57	609	4.1
2	5.7	4.5	1.0	17.8	12.4	3.3	0.4	70	855	8.0

※ 乾土あたり%

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては学田統、湯の里統、奥社名淵統があるが、これらとは堆積様式が異なるので区別される。

A-3 母材 半固結水成岩 (砂岩)

A-4 堆積様式 残積

B 地形 標高300~400mの丘陵地

C 気候 年平均気温 5.8℃ 年降水量 860.7mm

D 植生及び利用状況

大部分が未耕地であり、一部に馬鈴薯、ハツカ、豆類が作付されている。

E 農業上の留意事項

有機物施用

F 分布 北海道紋別郡遠軽町字白竜

調査及び記載責任者

宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年月日

昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
白竜-白竜	Htdnis

② 土壌区別説明

白 竜 統 一 白 竜 区

示 性 分 級 式 (畑)

土	表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵	
壤	効土	表表表	透保湿	保固土	置有微酸	有物	増地	自傾人	侵耐耐
生	土	土土	然	層分	換" "効	害理	冠す	然斜為	水風
産	土	土の	の	の	の	害質的	水のり	の	蝕
力	の	の	の	の	の	害質的	の	の	蝕
可	の	の	の	の	の	害質的	の	の	蝕
能	の	の	の	の	の	害質的	の	の	蝕
厚	の	の	の	の	の	害質的	の	の	蝕
性	の	の	の	の	の	害質的	の	の	蝕
等	の	の	の	の	の	害質的	の	の	蝕
級	の	の	の	の	の	害質的	の	の	蝕
	深含	性性	性性	力力	量" "素	無性	度度	斜向斜	度性性
	易	湿	度	否					
	t d g p	w	f	n		i	a	s	e
	II II I I	2 1 1	1 1 2	(2) I 2 1 1	II 1 2 2 2 1 2	II 1 2	I 1 1	II 2 --	I 1 1 1
簡略分級式		IIt d n i s							

A 土壤区の特徴

この土壤区は白竜統に属する。表土は15~20cmで中庸、有効土層は50cm前後で中庸~稍浅い。土性は細粒質であるが粘着性弱く、耕起・砕土は容易である。透水性は大で過湿のおそれはない。

保肥力は中庸で磷酸固定力小さく、塩基状態良好である。置換性の塩基は石灰多く、他は中庸で酸度も中庸である。災害性はなく、下層が礫層で有効土層が中~稍々浅いのが障害となつている程度である。傾斜は中庸で透水性良く、侵蝕の発現は認められない。

B 植生及び利用状況

大部分山林で未耕地となつているが一部に畑作物（ハツカ、デントコーン）が作付されている。

C 地力保全上の問題点

堆肥等有機物の施用により地力の維持増進に努めることが望ましい。

D 分布

北海道紋別郡遠軽町字白竜の一部

記載責任者 官 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)  
日 付 昭和44年3月31日



彌 生 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の等徴

A-1 断面の特徴

第1層は概ね厚さ15cm内外で、腐植含量5%前後、土性はLiCが多い。色は7.5YR~10YRで明度2~3、彩度3~4。発達弱度の細粒状構造で細孔を含む。ち密度1.5~2.0で中。PH(H<sub>2</sub>O) 5.5前後。下層との境界平坦判然である。

第2層は厚さ15cm内外、腐植を欠き、土性はCLのものが多い。色は7.5~10YRで明度4~6、彩度5~7。未風化の砂岩、頁岩半角礫を有する。発達弱度の細塊状構造と角柱状構造で、構造間に腐植が膜状に沈しているのが多い。ち密度2.0前後で中、PH(H<sub>2</sub>O) 5.2。下層との境界平坦漸変である。

第3層は厚さ15cm内外で腐植を欠き、土性はCLが主である。色は7.5YRで明度5~7、彩度3~5。未風化の砂岩・頁岩半角礫を有する。発達中度の角柱状構造で細孔を含む。構造間に腐植膜沈着しているのが多い。ち密度2.0~2.5で稍密。PH(H<sub>2</sub>O) 5.5。下層との境界平坦判然である。

第4層は概ね45cm以下で腐植を欠き、土性はCLを主とする。色は7.5YR~10YRで明度6~8、彩度3~5。未風化の砂岩・頁岩の半角礫を含み均質連結状を呈す。ち密度3.0前後で甚密。PH(H<sub>2</sub>O) 5.5。

代表的断面形態

(所在地) 紋別郡遠軽町字弥生 試坑No.11

第1層	0~14cm	腐植に富む黒褐(7.5YR 2/3)のLiC、礫なく、発達弱度の細粒状構造、細孔含む。ち密度1.8で中。PH(H <sub>2</sub> O) 5.6。調査時の湿り半乾。層界平坦判然。
第2層	14~29cm	腐植を欠く明褐(7.5YR 5/6)のCL。未風化砂岩・頁岩の半角礫を有す。発達弱度の細塊状構造と柱状構造。ち密度2.1で中。PH(H <sub>2</sub> O) 5.2。調査時の湿り半乾。層界平坦漸変。
第3層	29~44cm	腐植を欠く明橙褐(10YR 6/4)のCL。未風化砂岩・頁岩の半角礫を有す。発達中度の角柱状構造、細孔含む。ち密度2.3で中。PH(H <sub>2</sub> O) 5.5。調査時の湿り半乾。層界平坦判然。
第4層	44cm以下	腐植を欠く明橙褐(10YR 7/4)のCL。未風化砂岩・頁岩の半角礫を含む。均質連結状構造を呈し、ち密度3.2で甚密。PH(H <sub>2</sub> O) 5.5。調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

紋別郡遠軽町字弥生 試坑 611

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 $g$	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~14	4.1	8.5	29.1	36.5	25.9	LiO			3.07	0.238	13.5	5.3
2	14~29	2.8	8.5	30.1	36.7	24.7	CL			-	-	-	-
3	29~44	4.1	12.8	31.3	32.2	23.7	CL			-	-	-	-
4	44以下	4.3	15.9	34.2	33.7	16.2	CL			-	-	-	-

層位	PH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収 係 数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.6	4.3	4.0	12.9	10.1	2.5	0.3	46	870	10.0
2	5.2	3.9	27.3	16.9	2.8	1.6	0.2	17	934	tr
3	5.5	3.9	32.0	16.0	3.3	0.9	0.2	21	812	tr
4	5.5	3.6	17.5	21.3	9.7	5.9	0.2	46	814	12.1

※ 乾土あたり%

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては弥生西統、奥社名淵統があり、弥生西統とは母材、堆積様式の相違により、奥社名淵統とは堆積様式が異なるので区別される。

A-3 母材 固結水成岩(砂岩・頁岩)

A-4 堆積様式 残積

B 地形 標高200~300mの丘陵様台地

C 気候 年平均気温 5.8℃ 年降水量 860.7mm

D 植生及び利用状況

大部分採草地・放牧地として利用され、一部に馬鈴薯、麦類等が作付されている。

E 農業上の留意事項

有機物施用、深耕、心土破砕(50cm以下)

F 分布 北海道紋別郡字弥生の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
弥 生 - 弥 生	IIItdllpfse

② 土壌区別説明

彌生統一彌生区

示性分級式(畑)

土 壤	表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵																							
生 産 力 可 能 性 等	効 土 の 層 の 硬 深	表表表 土土土 ののの 粘 土土 着 硬 性性	透保湿 然 水水潤肥 性性度 湿	保固土 層分 の性 肥定塩 基状 沃力力態	置 有微酸 換" " 性 態量 の石苦加 灰土里酸要 含" " 量" " 量度	(有物 増地) 害理 冠す 物 的 水べ 質 的 害のり の障 危の 有害 險險 無性 度度	(自傾人 侵耐) 斜斜為 のの 傾傾 方方 斜向斜 度性性	(風 水) 蝕蝕																							
級	さ	さ	量	易	湿	度	否	性	性	斜	蝕																				
Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ	3	2	2	1	2	2	1	Ⅱ	1	2	3	Ⅱ	1	1	1	2	Ⅱ	1	1	1	Ⅱ	2	—	—	Ⅱ	2	2	1
簡略分級式												Ⅲtdllpfse																			

A 土壌区の特徴

この土壌区は弥生統に属する。表土は15cm内外で浅く、有効土層も40~50cmで浅い。土性は微粒質で粘着性強く、耕起・砕土がやゝ困難である。透水性中~やゝ小で保水性も中庸であり、過湿のおそれ少ない。

保肥力大、固定力小であるが塩基状態不良で自然肥沃度は中位である。養肥分は加里が中庸の他はいつでも多く、酸度は中程度である。特殊な障害性、災害性はないが5°前後の傾斜地で、かつ下層は甚密のため、侵蝕のおそれがある。

B 植生及び利用状況

概ね放牧地、採草対で一部畑作物が作付されている。

C 地力保全上の問題点

下層は養肥分に乏しく、強酸性を呈し、かつ表土が浅いので深耕と共に石灰、熔磷等を施用することが必要である。また地表下40~50cm以下は極めて堅い盤層であるので心土破碎をすることが望ましい。

D 分布

北海道紋別郡遠軽町字弥生の一部

記載責任者 官 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

柏 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm内外で腐植含量6~8%、土性はCLを主とする。色は7.5YR~10YRで明度2~4、彩度2~4。未風化半角礫(頁岩)に富み、発達弱度の細粒状構造で細孔に富む。ち密度1.0前後で疎である。PH(H<sub>2</sub>O)5.5前後。下層との境界平坦判然である。

第2層は厚さ20cm内外で腐植を欠き、色は7.5YR~10YR、明度3~5、彩度3~5。未風化半角礫(頁岩)に頗る富む。発達弱度の塊~細塊状構造で、細小孔を含む。ち密度1.8前後で中。PH(H<sub>2</sub>O)5.5前後。下層との境界平坦漸変である。

第3層は概ね35cm以下で灰褐色の半固結基岩礫層である。

代表的断面形態

(所在地) 紋別郡遠軽町字柏 試坑No.22

第1層	0~15cm	腐植に富む暗褐(7.5YR 3/3)のCL、未風化半角礫(頁岩)に富む。発達弱度の細粒状構造、細孔富む。ち密度1.1で疎、PH(H <sub>2</sub> O)5.5。調査時の湿り半乾。下層との境界平坦判然。
第2層	15~34cm	腐植を欠く褐(10YR 4/4)のCL、未風化半角礫(頁岩)に頗る富む。発達弱度の塊~細塊状構造、細孔含む。ち密度1.8で中、PH(H <sub>2</sub> O)5.6。調査時の湿り半乾。下層との境界平坦漸変。
第3層	34cm以下	灰褐色の半固結基岩礫層

代表的断面の分析成績

紋別郡遠軽町字柏 試坑No.22

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	現地容積重 $\rho$	真比重	全炭素 $\%$	全窒素 $\%$	炭素率	腐植 $\%$
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~15	3.2	16.1	31.6	32.7	19.6	CL	1.43		4.26	0.335	12.7	7.1
2	15~34	2.9	22.2	29.7	26.2	21.9	CL			-	-	-	-

層位	PH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収 係 数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	Kcl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.5	4.9	0.8	34.6	15.6	1.3	0.5	45	739	7.0
2	5.6	4.5	3.0	15.3	7.0	2.5	0.2	46	973	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては若咲内統であつて、堆積様式が異なるので区別される。

A-3 母 材 半固結水成岩 (頁岩)

A-4 堆積様式 残積

B 地 形 標高300~400mの丘陵地

C 気 候 年平均気温 5.8℃ 年降水量 860.7mm

D 植生及び利用状況

耕地化されているものは大部分採草地、放牧地として利用されている。

E 農業上の留意事項

深耕、有機物施用

F 分 布

北海道紋別郡遠軽町字柏の一部

調査及び記載責任者

宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日

昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
柏 - 柏	III d II t p n i s e

② 土壌区別説明

柏 統 一 柏 区

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵																								
生	効	土	表	表	透	保	固	置	有	有	増	自	侵																						
産	土	土	土	土	然	層	分	換	"	害	冠	税	斜	為	水	風																			
力	土	の	土	の	水	水	潤	肥	肥	塩	の	石	苦	加	磷	害	物	的	害	冠	す	べ	り	の	傾	傾	為	水	風						
可	の	層	の	の	粘	乾	の	水	水	潤	肥	肥	塩	の	石	苦	加	磷	害	物	的	害	冠	す	べ	り	の	傾	傾	為	水	風			
能	の	隙	土	の	粘	乾	の	水	水	潤	肥	肥	塩	の	石	苦	加	磷	害	物	的	害	冠	す	べ	り	の	傾	傾	為	水	風			
性	厚	難	着	硬	乾	沃	状	豊	含	"	"	"	素	度	無	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	
等	深	含	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
級	さ	さ	量	易	湿	度	否	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e																								
Ⅲ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	2	2	2	I	1	1	1	I	1	2	2	Ⅱ	1	1	2	2	1	2	Ⅱ	1	2	I	1	1	Ⅱ	2	--	Ⅱ	2	2	1
簡略分級式		Ⅲdltpnise																																	

A 土壤区の特徴

この土壤区は柏統に属する。表土の厚さは15cm内外で浅く、有効土層も35cmで浅い。土性は細粒質であるが粘着性稍強く。耕起、碎土はやゝ困難である。透水性大、保水性大で過湿のおそれは少ない。

保肥力大、固定力小で、塩基状態は中庸であり、自然肥沃度は高い。養分は加里、磷酸が中程度の他はいずれも多く、酸度も中程度である。災害性はないが基岩礫層が浅いのが障害となつている。また地形も丘陵地で傾斜地が多く、侵蝕のおそれがある。

B 植生及び利用状況

大部分採草地、放牧地である。

C 地力保全上の問題点

浅表土で礫が多いが堅硬なものではないので漸次深耕すること、なお深耕と共に有機物も施用することが望ましい。

D 分布

北海道紋別郡速軽町字柏の一部

記載責任者

宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付

昭和44年3月31日

向 遠 軽 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15～20cmで腐植含量6%前後。土性はCLを主とする。色は7.5YR～10YRで明度2～3、採度2～4、発達弱度の粒～細粒状構造で細孔を含む。ち密度10内外で頗る疎である。PH(H<sub>2</sub>O) 6.0～6.5、F層との境界平坦判然である。

第2層は厚さ30cm前後で腐植含量3%前後。土性はLiCが主である。色は7.5YR～10YRで明度2～4、彩度2～4。発達中度の細塊状構造で細孔～中孔に富む。ち密度15～19で中、PH(H<sub>2</sub>O) 5.0～5.5、下層との境界平坦漸変である。

第3層は厚さ15cm前後で腐植を欠き、土性はSLが主である。色は7.5YR～10YR、明度4～6、彩度5～7。発達弱度の細塊状構造と柱状構造との複合構造で細孔～中孔に富む。ち密度24で稍密、PH(H<sub>2</sub>O) 5.0～5.5、下層との境界平坦漸変である。

第4層は概ね65cm以下で腐植を欠き、土性はLを主とする。色は7.5YR～10YR、明度4～6、彩度7～8。発達弱度の細塊状構造と柱状構造よりなる。細孔を含み、小孔に富む。ち密度21で中、PH(H<sub>2</sub>O) 5.5内外。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 紋別郡遠軽町向遠軽 試坑No9

第1層	0～17cm	腐植に富む黒褐(10YR2/3)のCL、発達弱度の粒～細粒状構造、細孔含む。ち密度7で頗る疎。PH(H <sub>2</sub> O) 6.3。調査時の湿り半乾、層界平坦判然。
第2層	17～47cm	腐植を含む暗褐(10YR3/3)のLiC、発達中度の細塊状構造、細孔～中孔に富む。ち密度17で中、PH(H <sub>2</sub> O) 5.2。調査時の湿り半乾。層界平坦漸変。
第3層	47～63cm	腐植を欠く明褐(7.5YR5/6)のSL、発達弱度の細塊状構造と柱状構造の複合で細孔～中孔に富む。ち密度24で稍密。PH(H <sub>2</sub> O) 5.2。調査時の湿り半乾、層界平坦漸変。
第4層	63cm以下	腐植を欠く明褐(7.5YR5/8)のL。発達弱度の細塊状構造と柱状構造の複合で細孔を含み、小孔に富む。ち密度21で中。PH(H <sub>2</sub> O) 5.5。調査時の湿り半乾。

代表的断面の分析成績

紋別郡遠軽町字向速軽 試坑469

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土 性 性	現地 容積 重 $\rho$	真 比 重	全炭 素 %	全窒 素 %	炭 素 率	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シル ト	粘 土							
1	0~17	4.4	5.2	32.0	39.0	23.8	CL			3.64	0.308	11.8	6.0
2	17~47	6.3	4.3	29.9	33.2	32.6	LiC			1.98	0.222	8.9	3.2
3	47~63	7.3	14.6	55.2	24.0	6.2	SL			-	-	-	-
4	63~	7.0	13.8	45.0	32.9	8.3	L			-	-	-	-

層位	PH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰 飽和度 %	磷酸吸収 係 数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	Kcl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	6.3	5.4	0.3	27.4	2.04	3.9	1.1	74	1.027	21.3
2	5.2	4.1	9.5	20.8	5.7	0.5	0.5	27	1.421	1.7
3	5.2	4.3	6.5	21.3	3.4	0.6	1.1	16	1.854	tr
4	5.5	4.3	3.3	18.8	5.7	2.7	0.7	30	1.451	tr

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては豊里統、学田統、福路統、留岡統があるが、豊里統、学田統とは乾湿により区分され、福路統、留岡統とは堆積様式が異なるのでそれぞれ区分される。

A-3 母材 半固結水成岩 (凝灰岩・砂岩)

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地形 標高80m前後の緩傾斜を有する台地

C 気候 年平均気温 5.8℃ 年降水量 860.7mm

D 植生及び利用状況

麦類、豆類、根菜類等畑作物が作付されている。

E 農業上の留意事項

有機物施用、深耕、石灰・熔燐等土改資材の投入

F 分布 北海道紋別郡遠軽町字向速軽及び学田の一部

調査及び記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
向速軽一向速軽	Ilpf

② 土壌区別説明



向遠軽統 - 向遠軽区

示性分級式(畑)

土 壤	表 有 表 耕	土	自	養	障	災	傾	侵(		
生 産 力 可 能 性 等 級	効 土 の 層 の 厚 さ	表 土 の 粘 着 性 難 深 含 量	透 保 湿	保 固 土 層 の 塩 基 状 態 力	置 換 性 石 灰 含 量	有 微 酸 量 要 素 度	有 物 理 的 障 害 無 性	地 冠 す べ り の 危 険 度	自 傾 入 傾 方 斜 向 斜 度	耐 風 蝕 性
	t d g p	w	f	n	i	a	s	e		
	II I I I II 2 2 2	I 1 1 (2)	II 1 2 2	I 1 1 2 1 1 2	I 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 1 1		
簡略分級式		II p f								

A 土壌区の特徴

この土壌区は向遠軽統に属する。表土の厚さは45～50cm、有効土層は1m以上で深い。作土の土性は細粒質で粘着性稍強く、耕起、砕土はやゝ困難と思われる。透水性、保水性とも良好で、過湿、過乾のおそれはない。

保肥力は全層とも大で、磷酸固定力は小～中であり、土層の塩基状態は表土は極めて良好であるが、次層以外は不良である。表土は置換性石灰・苦土・加里・有効態磷酸とも多いが次層は石灰、苦土が中、有効態磷酸は少ない。障害性、災害性は特でない。

地形もほぼ平坦で侵蝕のおそれは少ない。

B 植生及び利用状況

殆んど耕地化されていて、畑作物中心に作付されている。

C 地力保全上の問題点

特記すべき問題点はないが、有機物施用につとめ、地力培養を心がけること。また作土層が浅いので深耕すること。なお深耕の際は下層の酸性が強く、かつ磷酸含量少ないので石灰・熔磷等の改良資材を併せて用いること。

D 分布

北海道紋別郡遠軽町向遠軽、学田の一部

記載責任者

宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付

昭和44年3月31日

学 田 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm内外で腐植含量10%前後。土性はLiCが主である。色は5YR~10YRで明度2~3、彩度2~3。発達弱度の細粒状構造で細孔に富む。ち密度10~15で疎。

PH (H<sub>2</sub>O) 5.5前後。下層との境界平坦判然である。

第2層は厚さ10cm内外で腐植含量1%前後。土性はLiCが主である。色は7.5YR~10YRで明度5~6、彩度1~3。発達弱度の細塊状構造で細孔に富む。ち密度15前後で疎。

PH (H<sub>2</sub>O) 5.5~6.0、層界平坦判然である。

第3層は厚さ15cm内外で腐植を欠き、土性はLiCを主とする。色は10YR~2.5Yで明度6~8、彩度1~2。発達中度の細塊状構造と弱度の柱状構造で細小孔を含む。雲状斑鉄(10YR6/6)を含む。ち密度20前後で中。PH (H<sub>2</sub>O) 5.5~6.0、層界平坦漸変である。

第4層は厚さ20cm内外で腐植を欠き、土性はLiCを主とする。色は2.5Y~5Yで明度6~8、彩度1~2。発達中度の細塊状構造と弱度の柱状構造で細小孔を含む。雲状斑鉄(7.5YR5/8)を含む。ち密度20前後で中。PH (H<sub>2</sub>O) 6.0前後。層界平坦漸変である。

第5層は概ね60cm以下で腐植を欠き、土性はC(農学会法触感)を主とする。発達弱度の塊状と板状構造で細孔を含む。雲状斑鉄(10YR8/6)である。ち密度25前後で稍密~密。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 紋別郡遠軽町字学田(未耕地) 試坑<sub>左</sub>30

第1層	0~15cm	腐植に頗る富む黒褐(5YR2/2)のLiC、発達弱度の細粒状構造。細孔富む。ち密度13で疎。PH (H <sub>2</sub> O) 5.6。調査時の湿り半乾。層界平坦判然。
第2層	15~24cm	腐植を欠く黄褐灰(10YR6/2)のLiC、発達弱度の細塊状構造。細孔富む。ち密度16で疎。PH (H <sub>2</sub> O) 5.8。調査時の湿り半湿。層界平坦判然。
第3層	24~38cm	腐植を欠く淡黄褐灰(10YR8/1)のLiC、発達中度の細塊状と弱度の柱状構造。細小孔含む。雲状斑鉄(10YR6/6)を含む。ち密度21で中。PH (H <sub>2</sub> O) 5.9。調査時の湿り湿。層界平坦漸変。
第4層	38~60cm	腐植を欠く淡黄灰(5Y7/1)のLiC。発達中度の細塊状と弱度の柱状構造。細小孔含む。雲状斑鉄(7.5YR8/5)を含む。ち密度24で稍密。PH (H <sub>2</sub> O) 5.8。調査時の湿り湿。層界平坦漸変。
第5層	60cm以下	腐植を欠く淡黄灰(5Y7/1)のG(農学会法触感)、発達弱度の塊状と板状構造。細孔含む。雲状斑鉄(10YR8/6)あり。調査時の湿り湿。

代表的断面の分析成績

紋別郡速軽町字学田（未耕地） 試坑No 30

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	現地容積重 $g$	真比 重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~17	4.5	8.1	29.0	35.1	27.8	LiC			7.83	0.512	14.4	12.1
2	17~24	2.4	8.7	23.7	41.3	26.3	LiC			0.48	0.061	8.0	0.8
3	24~38	3.6	3.2	20.0	41.0	35.8	LiC			-	-	-	-
4	38~60	3.8	6.3	18.2	34.3	41.2	LiC			-	--	-	-

層位	PH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収 係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	Kcl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.6	4.4	3.4	34.0	10.3	3.7	0.5	30	1.066	tr
2	5.8	3.8	17.3	13.8	3.9	3.4	0.1	28	686	tr
3	5.9	3.6	27.8	18.2	5.5	4.9	0.1	30	751	5.0
4	5.8	3.6	26.0	18.2	6.4	7.1	0.1	35	723	2.1

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては白竜統、向速軽統、若咲内統、湯の里統、福路統、社名淵統、隠沢統、栄野統、留岡統、清川統、奥社名淵統があり、向速軽統とは乾湿が異なり、また他の土壌とは堆積様式が異なるのでそれぞれ区分される。

A-3 母材 半固結水成岩（凝灰岩・砂岩）

A-4 堆積様式 洪積世堆積

B 地形 緩傾斜の台地（標高80~120m）

C 気候 年平均気温 5.8℃ 年降水量 860.7mm

D 植生及び利用状況

大部分耕地化され、その殆んどは畑作物を主体として作付されている。

E 農業上の留意事項

有機物施用、石灰・熔磷等土改資材の投入、排水（心土破碎・暗渠）

F 分布 北海道紋別郡速軽町字学田、留岡、白竜、千代田、若咲内の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
学 田 - 学 田	Itpldwfna

② 土壤区別説明

学 田 統 - 学 田 区

示 性 分 級 式 (畑)

土	壤	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵																
生	効	土	表	表	表	透	保	湿	固	土	置	有	微	酸	有	物	增	地	自	傾	人	侵	耐	耐				
産	土	土	耘	土	土	然	層	分	換	性	態	量	害	理	冠	す	水	の	斜	為	然	為	水	風				
力	土	の	の	の	の	水	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	質	的	害	の	傾	傾	蝕	蝕			
可	の	層	の	の	の	乾	の	水	潤	肥	定	塩	の	石	苦	加	磷	害	質	的	害	の	傾	傾	蝕			
能	の	礫	土	粘	土	乾	沃	状	豊	含	量	素	度	無	性	危	險	度	斜	向	斜	度	性	性				
性	厚	深	含	性	性	性	性	度	力	力	態	量	素	度	無	性	危	險	度	斜	向	斜	度	性	性			
等	深	含	性	性	性	性	性	度	力	力	態	量	素	度	無	性	危	險	度	斜	向	斜	度	性	性			
級	さ	さ	量	易	湿	度	否	性	性	斜	蝕																	
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e																	
	■	■	■	■	■	3	3	2	■	2	1	2	■	1	2	3	■	1	1	2	■	1	2	■	1	1	1	1
簡略分級式		■tp  dwfna																										

A 土壤区の特徴

この土壤区は学田統に属する。表土は15cm内外で浅く、有効土層は約1mあつて深い。土性は微粒質で粘性強く、耕起、砕土が困難である。透水性中～稍小、保水性大で湿性を呈しており、過湿となるおそれがある。

保肥力大、固定力小、塩基状態良好である。養肥分では磷酸少なく、加里中庸で他は多い。酸度も中庸であるが一般に下層は極強酸性を呈し、未飽和な土壤である。融雪、降雨時は凹地では一時的に冠水するおそれがある。

B 植生及び利用状況

概ね畑地である。

C 地力保全上の問題点

表土が浅いので深耕が望ましく、有機物、石灰、燐等の改良資材を施用する必要がある。また下層土の透水性がやゝ悪いので心土破砕施工が望ましい。

D 分布

北海道紋別郡遠軽町学田、留岡、白竜、千代田、若咲内の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

彌 生 東 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15~20cmで腐植含量8%内外。土性はLiCを主とする。色は10YRで明度2~3、彩度2~3。発達弱度の細粒状構造で細孔に富む。ち密度10以下で頗る疎。PH(H<sub>2</sub>O)5.5前後。下層との境界は平坦判然である。

第2層は厚さ10cm前後で腐植含量3%内外。土性はLiCを主とする。色は10YRで明度3~5、彩度2~4。発達中度の細粒状構造で細孔を含む。ち密度15前後で疎。PH(H<sub>2</sub>O)5.0~5.5。下層との境界は平坦判然である。

第3層は厚さ25cm前後で腐植を欠く。土性はLiCを主とする。色は10YRで明度6~7、彩度2~4。半固結水成岩(中生層砂岩)の角~半角礫を含む。柱状構造で細孔に乏しい。ち密度23~25で中、PH(H<sub>2</sub>O)5.5前後。下層との境界は平坦~波状漸変である。

第4層は厚さ10~15cmで腐植を欠き、土性はLiCを主とする。色は10YR~25Yで明度7~8、彩度1~2。柱状構造で細孔に乏しい。ち密度23~25で中。PH(H<sub>2</sub>O)5.5前後。下層との境界は平坦判然である。

第5層は概ね65cm以下で腐植を欠き、土性はC(農学会法触感)を主とする。色は7.5Yで明度7~8。彩度1~2。均質連結状もしくは柱状構造で、擬似グライを呈する。ち密度25~28で密。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 紋別郡遠軽町字弥生 試坑No13

第1層	0~18cm	腐植に富む暗褐(10YR3/3)のLiC。発達弱度の細粒状構造、細孔富む。ち密度9で頗る疎、PH(H <sub>2</sub> O)5.4。調査時の湿り半乾、層界平坦判然。
第2層	18~25cm	腐植を含む灰黄褐(10YR4/3)のLiC。発達中度の細粒状構造で細孔含む。ち密度14で疎。PH(H <sub>2</sub> O)5.3。調査時の湿り半乾。層界平坦判然。
第3層	25~52cm	腐植を欠く灰黄橙(10YR7/3)のLiC。半固結水成岩(砂岩)の半角~角礫を含む。中度の中角柱状構造で細孔含む。ち密度23で中。PH(H <sub>2</sub> O)5.5。調査時の湿り半湿。層界平坦漸変。
第4層	52~65cm	腐植を欠く淡黄褐灰(10YR7/1)のLiC。発達強度の中角柱状構造。ち密度24で中~稍密。PH(H <sub>2</sub> O)5.4。調査時の湿り半湿。層界平坦判然。
第5層	65cm以下	腐植を欠く淡黄灰(7.5Y7/1)のC(農学会法触感)。均質連結状もしくは弱度の柱状構造。ち密度は密。調査時の湿り湿。(擬似グライ的)

代表的断面の分析成績

紋別郡速軽町字弥生 試坑No 13

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	現地容積重 $\rho$	真比重	全炭素※ %	全窒素※ %	炭素率	腐植%
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~18	4.9	7.5	23.9	38.2	30.4	LiC			4.70	0.393	12.0	7.7
2	18~25	5.8	12.2	21.0	36.4	30.4	LiC			1.78	0.177	10.0	2.9
3	25~52	4.8	17.6	18.9	34.6	28.9	LiC			-	-	-	-
4	52~65	5.4	7.9	19.9	30.4	41.8	LiC			-	-	-	-

層位	PH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	Kcl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.4	4.6	1.4	25.2	14.0	2.5	0.4	56	877	4.2
2	5.3	3.9	1.8	19.1	5.9	1.0	0.2	31	890	7.2
3	5.5	3.9	20.8	18.5	5.4	3.3	0.2	29	857	8.0
4	5.4	3.7	33.0	25.1	7.5	4.2	0.4	30	979	tr

※ 乾土あたり%

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては奥社名淵統があるが、本統とは堆積様式、腐植含量が異なるので区別される。

A-3 母材 半固結水成岩 (中生層・砂岩)

A-4 堆積様式 洪積世堆積 (扇状堆土)

B 地形 標高300~360mの緩傾斜地

C 気候 年平均気温 5.8℃ 年降水量 860.7mm

D 植生及び利用状況

概ね採草地として利用され、未耕地はタモ、ハレノキ、ナラ等の山林である。

E 農業上の留意事項

心土破砕、暗渠施工、有機物施用

F 分布

北海道紋別郡速軽町字弥生の一部

調査及び記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年月日

昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
弥生東-弥生東	lltdpwnse

② 土壤区別説明

彌生東統 - 彌生東区

示性分級式 (畑)

土	壤	表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵
生	効	表表表	透保湿	保固土	置有微酸	有物	増地	自傾人	侵耐耐
産土	土	土土	然	層分	換" "効	害理	冠す	然斜為	水風
力	土	土土	の風	の	性態量	害質	水のり	の傾	蝕蝕
可	の	の	水水潤肥	肥定塩	の石苦加磷	害質	害の	の傾	蝕蝕
能	の	粘土	乾	基	灰土里酸	の障	危危	傾方	蝕蝕
性	厚	難	着硬乾	沃	状豊	有害	險險	斜向斜	度性性
等	深	含	性性さ	力力態	量" "素度	無性	度度	斜向斜	度性性
級	さ	量易	湿	度	否	性	性	斜	蝕
	t	d g p	w	f	n	i	a	s	e
II	II II I II	3 3 2	II 3 2 2	II 1 2 2	II 1 1 2 2 1 2	I 1 1	I 1 1	II 2 --	II 2 1 1
簡略分級式			II t d p w f n s e						

A 土壤区の特徴

この土壤区は彌生東統に属する。表土の厚さは20～25cmで中程度で有効土層は70cm前後で中である。表土は礫を含まず、微粒質で粘着性強く農機具が使いにくい。保水性は中庸であるが下層土の透水性不良で過湿のおそれがある。

保肥力は、大、磷酸固定力は中庸で塩基状態も普通である。作土は石灰・苦土に富み、加里、有効態磷酸を中程度に含んでいる。第3層以下は強い酸性を示す。地形は緩傾斜地で水蝕のおそれがある。特殊な障害性、災害性はない。

B 植生及び利用状況

大部分、農耕地として利用されており、一部は山林となつている。作物は殆んど牧草で採草地となつている。

C 地力保全上の問題点

微粒質で重粘なため農機具が使いにくく、かつ下層の透水性が悪く、凝似グライを呈している。このために有機物の施用と心土破碎、暗渠等の施工が必要で、特に心土破碎を50～60cmの深さに入れることが有効と思われる。

D 分布

北海道紋別郡遠軽町字彌生の一部

記載責任者

宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付

昭和44年3月31日

若 咲 内 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15～20cm、腐植含量4%内外、土性CLを主とする。色は7.5 YRで明度3～5、彩度2～4、未～半風化の半角礫（砂岩・流紋岩）をわずかに含む。発達弱度の粒～細粒状構造のものが多く、細孔を含む。ち密度1.0～1.6で疎。PH (H<sub>2</sub>O) 5～6、下層との境界平坦判然である。

第2層は厚さ20～25cmで腐植を欠き、土性はCLを主とする。色は7.5 YRで明度4～6、彩度4～6。半角礫（砂岩・流紋岩）をわずかに含む。発達弱度の塊～細塊状構造で、細孔を含む。ち密度1.5前後で疎。PH (H<sub>2</sub>O) 5.5前後、下層との境界は波状判然である。

第3層は厚さ20cm前後で腐植を欠き、土性はCLを主とする。色は7.5 YRで明度7～8、彩度6～8。半角礫（砂岩・流紋岩）をわずかに含む。発達弱度の塊状構造で細孔を含む。雲状の斑鉄を含む。ち密度2.5前後で密。PH (H<sub>2</sub>O) 5.5前後。下層との境界は平坦明瞭である。

第4層は概ね60cm以下で角～半角礫（砂岩・流紋岩）の礫層である。

代表的断面形態

(所在地) 紋別郡遠軽町字若咲内 試坑No.20

第1層	0～17cm	腐植を含む褐（7.5 YR 4/3）のCL、砂岩礫、流紋岩礫あり。発達弱度の粒～細粒状構造、細孔含む。ち密度1.6で疎。PH (H <sub>2</sub> O) 6.0。調査時の湿り半乾。層界平坦判然。
第2層	17～40cm	腐植を欠く明褐（7.5 YR 5/6）のCL、砂岩礫、流紋岩礫あり。発達弱度の塊～細塊状構造、細孔含む。ち密度1.5で疎。PH (H <sub>2</sub> O) 5.5。調査時の湿り半湿。層界波状判然。
第3層	40～60cm	腐植を欠く明橙褐（7.5 YR 7/6）のCL、砂岩礫、流紋岩礫あり。発達弱度の塊状構造もしくは柱状構造で細孔含む。雲状の斑鉄含む。ち密度2.6で密、PH (H <sub>2</sub> O) 5.4。調査時の湿り湿。層界平坦明瞭。
第4層	60cm以下	半固結水成岩（砂岩）・固結火成岩（流紋岩）の角礫～半角礫よりなる礫層

代表的断面の分析成績

紋別郡遠軽町字若咲内 試坑No.20

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 $\rho$	真比 重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0～17	3.6	11.8	27.1	36.2	24.9	CL			2.41	0.239	10.1	4.0
2	17～40	3.0	17.9	31.8	33.5	16.8	CL			-	-	-	-
3	40～60	3.0	15.8	34.9	34.2	15.1	CL			-	-	-	-



層位	PH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収 係 数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	6.0	5.3	0.5	18.2	12.7	1.0	0.1	70	923	18.7
2	5.5	4.3	5.3	11.6	4.5	1.9	0.1	39	765	tr
3	5.4	4.1	7.0	12.2	4.5	3.0	0.2	37	690	tr

#### A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては柏統、学田統、福路統、湯の里統、隠沢統、千代田統、清川統があるが、いずれも本統とは堆積様式が異なるので区分される。

A-3 母 材 半固結水成岩（砂岩）・固結火成岩（流紋岩）

A-4 堆積様式 洪積世堆積（扇状堆土）

B 地 形 標高100～400mの緩傾斜地。

C 気 候 年平均気温 5.8℃ 年降水量 870.6mm

D 植生及び利用状況

大部分耕地化され、麦類、豆類、根菜類、ハツカ、牧草等が作付けされており、一部山林となっている。

E 農業上の留意事項

心土破碎、暗渠、有機物施用、除礫

F 分 布 北海道紋別郡遠軽町字若咲内、柏、湯の里、野上、豊里、向遠軽の一部

調査及び記載責任者 宮 勝 忠（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和44年3月31日

#### (2) 土壌統の細分

##### ① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
若咲内 - 1	IItdpwfne
" - 2	IIlgieIItpwfns

##### ② 土壌区別説明

若 咲 内 統 - 1 区

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤	表 有	表 耕	土	自	養	障	災	傾	侵
生 産 力 可 能 性 等 級	効 土 層 の 隙 厚 さ	土 耘 の 際 含 量 易	表 土 の 乾 粘 土 着 性	透 保 湿 然	保 固 土 層 分 換 性 塩 基 状 力 態	置 有 微 酸 物 質 的 障 害 無 性	有 物 害 質 の 障 害 無 性	增 地 冠 す 水 り の 危 険 度	自 傾 人 侵 耐 耐 然 斜 為 の 傾 方 斜 向 斜 度 性 性
	t d g p	w	f	n	i	a	S	e	
	II II II II 2 3 2	II 2 2 1	II 2 2 2	II 1 2 3 1 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 --	II 2 2 1
簡略分級式		II t d p w f n e							

A 土 壤 区 の 特 徴

この土壌区は若咲内統に属する。表土の厚さは15~20cmで中庸、有効土層は60cm内外で中庸である。表土は隙をわずかに含み、細粒質で粘着性は強く、農具は使いにくいと思われる。保水性は中庸であるが透水性はやゝ不良で湿性を呈しており、一時的に過湿となるおそれがある。

保肥力、固定力とも中庸で自然肥沃度は中位である。作土は石灰、有効態磷酸に富んでいるが、苦土、加里が不足し、特に加里は極めて少ない。また次層以下については有効態磷酸が不足している。地形は概ね2~3°の微傾斜で、下層の透水性悪いため、水蝕のおそれがある。災害性、障害性は特になし。

B 植 生 及 び 利 用 状 況

大部分耕地化され、麦類、豆類、根菜類、ハツカ等が作付されている。一部は山林となつている。

C 地 力 保 全 上 の 問 題 点

下層の透水性悪く、湿性を呈しているので排水施工(暗渠・心土破砕)が必要である。特に心土破砕は50~60cmの深さに入ると効果的と思われる。

また水蝕のおそれがあるので、有機物施用、等高線栽培等必要であろう。その他加里肥料の増施。

D 分 布

北海道紋別郡速軽町若咲内、豊里、向速軽の一部

記載責任者 官 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

② 土壤区別説明

若 咲 内 統 - 2 区

示 性 分 級 式 (畑)

土	壤	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵
生	効	表	表	表	透	保	固	土	置	有	微	酸
産	土	土	土	土	然	層	分	換	"	"	効	有
力	土	土	土	土	風	水	水	潤	肥	定	塩	石
可	の	の	の	の	乾	水	水	潤	肥	定	塩	石
能	の	の	の	の	粘	土	着	硬	乾	沃	状	豊
性	厚	難	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
等	深	含	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
級	さ	さ	量	易	湿	度	否	性	性	斜	蝕	
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e	
	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	
	2	3	2	1	3	2	1	2	1	2	3	
	1	2	3	2	1	2	3	2	1	2	3	
	1	3	1	1	1	2	--	1	3	2	1	
簡略分級式	■ d g i e l t p w f n s											

A 土壤区の特徴

この土壤区は若咲内統に属する。母材、堆積様式、土性、腐植含量、土色等は1区にはほぼ同じであるが表土の礫含量が多くかつ礫層が浅いため、2区として区分したものである。表土の厚さは15~20cmで中庸であるが、次層から未風化の流紋岩、未風化~半風化の砂岩の角~半角礫層で、有効土層は浅い。表土は細粒質で粘着性は稍強く、耕起・破碎にやゝ困難を感じる。

肥力は中庸、固定力は小さい。自然肥沃度は中位である。養分状態は石灰が多く、苦土、有効態磷酸中であるが、加里は少ない。

1区に比べて傾斜5内外で、下層は堅密な礫層となつているため、透水性不良で、ガリーの発生が見られる。礫層が浅いのが障害であり、災害性はない。

B 植生及び利用状況

大部分採草地、放牧地となつているが、一部豆類、麦類、ハツカ等が作付されている。

C 地力保全上の問題点

この土壤区は表土から礫多く、次層より礫層であるため表土の礫は極力除礫したほうが良い。また水蝕を受けるところが多く、有機物を施用し、牧草地とするほうが侵蝕防止のためにも良いと思われる。

D 分布 北海道紋別郡遠軽町字若咲内、豊里、向遠軽の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)  
日 付 昭和44年3月31日

福 路 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm前後で腐植含量4~6%、土性はCLを主とし、一部SC・LICのものもある。色は7.5YR~10YRで明度2~3、彩度1~2のものが多い。発達弱度~中度の細粒状構造で細孔に富む。ち密度11~17で疎。PH(H<sub>2</sub>O) 5.5前後。下層との境界は平坦判然である。

第2層は厚さ25~30cmで腐植含量1~2%で5%前後のものもある。土性SLを主とするがCLのものもある。色は7.5YR~10YRで明度4、彩度2~3。発達中度細塊~塊状構造で細孔に富む。ち密度15~17で疎。PH(H<sub>2</sub>O) 5.5~5.8。この層の上部に10YR7/3の火山灰層を認められる場合もある。下層との境界は平坦明瞭である。

第3層は概ね40~50cm(一部30cm前後)以下で、半固結水成岩(砂岩)の小~大円礫よりなる礫層である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 紋別郡遠軽町字福路 試坑№8

第1層	0~20cm	腐植に富む黒褐(10YR2/2)のCL、発達弱~中度の細粒状構造で細孔に富む。ち密度17で疎、PH(H <sub>2</sub> O) 5.6。調査時の湿り半乾、層界平坦判然。
第2層	20~50cm	腐植を欠く灰黄褐(10YR4/2)のSL、発達弱度の塊状構造と中度の細塊状構造で細孔に富む。ち密度17で疎。PH(H <sub>2</sub> O) 5.5。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。
第3層	50cm以下	未~半風化の半固結水成岩(砂岩)の礫層

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

紋別郡遠軽町字福路 試坑№8

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 $\rho$	真比 重	全炭素 %	全窒素 %	炭素 率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	3.2	8.4	40.9	28.2	22.5	CL			3.23	0.290	11.1	5.4
2	20~50	2.7	12.5	56.1	19.7	11.7	SL			0.66	0.077	8.5	1.1

層位	PH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収 係 数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.6	4.4	3.3	23.3	9.7	0.6	0.4	42	862	15.7
2	5.5	4.0	13.8	10.9	3.4	0.1	0.3	31	357	1.6

※ 乾土あたり%

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては向遠軽統、学田統、豊里統、若咲内統、弥生西統、見晴統、遠軽中央統、留岡統、隠沢統、湯の里統、栄野統、千代田統、清川統があり、向遠軽統、学田統、豊里統、若咲内統、弥生西統、見晴統、栄野統、千代田統、清川統とは堆積様式、留岡統、隠沢統とは土層の乾湿、遠軽中央統とは表土の土性と腐植含量、湯の里統とは、表土の礫含量にそれぞれ相違があるので区分できる。

A-3 母材 半固結水成岩（砂岩）

A-4 堆積様式 水積（河成）

B 地形 緩波状を呈する河川流域の低平地。

C 気候 年平均気温 5.8℃ 年降水量 860.7mm

D 植生及び利用状況

殆んど耕地化され、一般畑作物が作付されている。（一部牧草地）

E 農業上の留意事項

深耕、有機物施用、土改資材の投入

F 分布 北海道紋別郡遠軽町字若咲内、瀬戸瀬、野上、豊里、福路、丸大、留岡、学田の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
福 路 - 1	tdfni
" - 2	di  tf

② 土壌区別説明

福 路 統 - 1 区

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵									
生	効	土	表	表	透	保	固	置	有	物	増	地	自	傾	人	侵	耐			
産	土	土	耘	土	湿	然	層	換	微	害	冠	す	然	斜	為	水	風			
力	土	の	土	の	水	潤	肥	の	性	物	水	べ	の	傾	傾	水	風			
可	の	層	の	の	水	潤	肥	定	塩	害	的	の	傾	傾	傾	水	風			
能	の	礫	粘	土	乾	沃	基	灰	土	質	障	危	危	傾	傾	水	風			
性	厚	難	土	着	硬	乾	状	豊	里	の	害	險	險	方	水	風				
等	深	含	性	性	性	度	力	量	酸	無	無	度	度	斜	斜	度	性			
級	さ	さ	量	易	湿	度	否	性	性	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	性			
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e									
Ⅱ	Ⅱ	Ⅱ	Ⅰ	Ⅰ	2	2	1	Ⅰ	1	2	1	Ⅱ	1	2	Ⅰ	1	1	1	1	1
簡略分級式 Ⅱtdfni																				

**A 土壤区の特徴**

この土壤区は福路統に属する。表土の厚さは20cm前後で中庸であるが、有効土層は50～65cmで中庸もしくは稍浅い。表土の土性は細粒質で、粘着性は中程度で耕起・砕土は容易である。表土には礫はなく、保水性は普通であるが50～65cm以下は礫層で透水性は良い。

保肥力は大であるが固定力と塩基状態は中程度である。置換性の苦土、加里を中程度にもち、石灰及び有効態磷酸は多い。

地形が緩波状を呈しているため凸部において若干の侵蝕を受けている。災害性はなく、礫層の浅いところはやゝ障害となつている。

**B 植生及び利用状況**

殆んどが耕地化されており、畑作物、ソ菜等が作付されている。

**C 地力保全上の問題点**

特記すべき問題点はないが、塩基状態やゝ不良で、加里、及び苦土入り肥料の増施が望ましい。また、深耕により根圏域の拡大をはかることが望ましく、その際は下層が強酸性で塩基が不足であるので、石灰等の改良資材、及び肥料の増量が必要である。

**D 分布**

北海道紋別郡遠軽町字若咲内、瀬戸瀬、野上、豊里、福路、丸大、留岡、学田の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)  
日 付 昭和44年3月31日

② 土壤区別説明

福路統 - 2 区

示性分級式(畑)

土	表	表	表	土	自	養	障	災	傾	侵														
壤	効	土	表	透	保	固	置	有	有	増	自	侵												
生	効	土	表	湿	然	土	換	微	物	地	傾	耐												
産	土	土	土	保	然	層	性	酸	害	冠	然	耐												
力	土	の	の	潤	肥	の	性	量	理	す	斜	水												
可	の	の	の	肥	定	塩	苦	加	的	水	の	風												
能	の	粘	土	沃	基	灰	土	要	障	の	傾	蝕												
性	厚	難	着	乾	状	含	里	素	害	危	方	蝕												
等	深	含	性	性	力	量	酸	度	無	險	斜	性												
級	さ	量	易	度	否	性	性	斜	性	斜	蝕	性												
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e													
	■	■	I	I	2	2	1	(I)	1	2	1	■	1	3	I	1	1	I	1	—	I	1	1	1
簡略分級式		■diIItf																						

A 土壤区の特徴

この土壤区は福路統に属する。1区よりも礫層が浅いので区分したものである。表土は15~16cmで中、有効土層は30~40cmで浅い。土性は細粒質で粘性は中程度のもので農具の使用、耕起、砕土は容易である。保水性は良く、春季に過乾のおそれがあると思われる。

保肥力大、固定力は中程度で塩基状態も中程度である。養分は加里、有効態磷酸が中で苦土、石灰は多である。災害性は少なく、障害性は礫層浅いために大きい。地形の凸部において侵蝕が認められる。

B 植生及び利用状況

殆んど耕地として利用され、畑作物、ソ菜が作付されている。

C 地力保全上の問題点

作土が浅いので深耕すること、その際は下層の塩基状態が良くないので石灰、熔磷等の改良資材の投入が必要で、また、加里、磷酸等肥料を増施することが必要である。

有機物施用が大切なのもちろんである。

D 分布

北海道紋別郡遠軽町字若咲内、瀬戸瀬、野上の一部

記載責任者 官 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)  
日 付 昭和44年3月31日

遠 軽 中 央 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ17cm内外で腐植含量2~4%、土性はSLを主とするものが多い。色は7.5~10YRで明度3、彩度3~4。未風化の砂岩を主とする円礫を含む。発達弱度の細粒状構造が多く、細孔に富む。ち密度1.0以下で頗る疎。PH (H<sub>2</sub>O) 5.5~6.0。下層との境界平坦明瞭。

第2層は概ね17~18cm以下（一部に30cm前後のものもあるが）褐色の半固結水成岩（砂岩主材）の未風化円礫層よりなる。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 紋別郡遠軽町字向遠軽 試坑No10

第1層	0~17cm	腐植を含む暗褐（7.5 YR 3/4）のSL、未風化の砂岩を主とする中円礫を含む。発達弱度の粒~細粒状構造で細孔富む。ち密度4で頗る疎。PH (H <sub>2</sub> O) 5.9。調査時の湿り半乾、層界平坦明瞭。
第2層	17cm以下	未風化の半固結水成岩（砂岩）を主とする円礫層。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

紋別郡遠軽町字向遠軽 試坑No10

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~17	2.4	42.3	32.7	14.5	10.5	SL			1.61	0.151	10.7	2.7

層位	PH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.9	4.3	3.4	21.9	9.4	1.4	0.8	43	687	22.1

※ 乾土あたり%

A-2 他の土壤統との関係

本統に隣接する統としては豊里統、学田統、若咲内統、清川東統、福路統、湯の里統、隠沢統、社名淵統、千代田統、見晴統、清川統があるが、清川東統、福路統、湯の里統とは表土の土性、礫層の深浅により区分され、他の土壤統とは堆積様式が異なるのでそれぞれ区分される。



- A-3 母材 半固結水成岩 (砂岩主材)
- A-4 堆積様式 水積 (河成)
- B 地形 緩波状を呈する低地
- C 気候 年平均気温 5.8℃ 年降水量 860.7mm
- D 植生及び利用状況

殆んど耕地化されており、畑作物、ノ菜が作付されている。

E 農業上の留意事項

有機物施用、粘質土の客入

F 分布

北海道紋別郡遠軽町字学田、向遠軽、福路、野上、瀬戸瀬の一部

調査及び記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年月日

昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
遠軽中央-遠軽中央	■diIt(w)

② 土壌区別説明

遠 軽 中 央 統 - 遠 軽 中 央 区

示 性 分 級 式 (畑)

土 生 産 力 可 能 性 等 級	表 土 の 層 の 深 さ	表 土 の 粘 土 含 量	表 土 の 乾 硬 性	透 水 性	保 湿 性	自 然 沃 土 力	養 分 定 量	置 換 性 量	有 機 酸 量	障 害 物 質 有 無	災 害 的 障 害 有 無	傾 倒 危 険 度	侵 蝕 危 険 度	耐 風 蝕 性
	t d g P	w	f	n	i	a	s	e						
	■ II ■ I I 1 1 1	(II) 1 2 (2)	I 1 1 2	I 1 1 1 1 1 2	■ 1 3	I 1 1	I 1 --	I 1 2 1						
簡略分級式 ■diIt(w)														

A 土壤区の特徴

この土壤区は遠軽中央統に属する。表土の厚さ20cm弱で中庸であるが次層より礫層が出現するので有効土層は極めて浅い。土性は中粒質が主であり、農具の使用は容易である。保水性は中～やや小さく、透水性は大きいため、春季に過乾となるおそれがある。

保肥力は大、固定力は小さい。塩基状態は中庸で、置換性石灰、加里、苦土、有効態磷酸が多い。礫層が浅いので障害が大きく、災害性は少ない。地形によつては波状性の凸部においては、侵蝕の認められるところがあるが程度は小さい。

B 植生及び利用状況

殆んど耕地となつていて、畑作物、ソ菜等が作付されている。

C 地力保全上の問題点

礫層が浅く過干のおそれがあるので粘質土の客入、有機物施用をすること。

D 分布

北海道紋別郡遠軽町字向遠軽、学田、野上、瀬戸瀬の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

湯 の 里 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20～25cmで腐植含量7～8%、一部5%以下のところもある。土性はLiCのものが多い。色は7.5YRで明度2、彩度3。半固結水成岩(砂岩)の未風化半角礫に富む。発達弱度の細粒状構造で、細孔に富む。ち密度1.0前後で疎～頗る疎。PH(H<sub>2</sub>O) 5.8～6.5。下層との境界は平坦判然である。

第2層は20～25cm以下(一部35～40cm以下)で、半固結水成岩(砂岩)を主とする未風化の半角～円礫よりなる褐色の礫層である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 紋別郡遠軽町字千代田 試坑No.5

第1層	0～20cm	腐植に富む黒褐(7.5YR2/3)のLiC、砂岩を主とする半角礫含む～富む。発達弱度の細粒状構造で細孔を含む。ち密度1.0で頗る疎、PH(H <sub>2</sub> O) 6.5。調査時の湿り半乾。層界平坦判然。
第2層	20cm以下	未風化の砂岩を主とする褐色半角礫の礫層

代表的断面の分析成績

紋別郡遠軽町字千代田 試坑No 5

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	現地容積重 $g$	真比重	全炭素 $\%$	全窒素 $\%$	炭素率	腐植 $\%$
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	6.4	11.3	24.8	28.7	35.2	LiC			4.77	0.448	10.7	7.7

層位	PH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収 係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	6.5	5.6	0.6	36.2	26.8	6.1	1.8	74	1.235	36.0

※ 乾土あたり%

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては若咲内統、学田統、留岡統、福路統、隠沢統、遠軽中央統、社名淵統、清川統、奥社名淵統があり、若咲内統、学田統、社名淵統、清川統、奥社名淵統とは堆積様式が異なり福路統と遠軽中央統とは表土の土性と、礫含量が異なり、留岡統、隠沢統とは乾湿が異なるのでそれぞれ区分される。

A-3 母材 半固結水成岩 (砂岩主)

A-4 堆積様式 水積 (河成)

B 地形 低地

C 気候 年平均気温 5.8℃ 年降水量 860.7mm

D 植生及び利用状況

殆んど耕地化されており、畑作物・牧草が作付されている。

E 農業上の留意事項

除稈、有機物施用

F 分布

北海道紋別郡遠軽町字白竜、千代田、弥生、湯の里、瀬戸瀬、若咲内の一部

調査及び記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
湯の里-湯の里	di  tgP(w)

② 土壌区別説明

湯の里統 - 湯の里区

示性分級式(畑)

土	表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵											
生	効	表表表	透保湿	保固土	置有微酸	有物	増地	自傾人	侵耐耐										
産土	土	土土の	然	層分	換" "効	害理	冠す	然斜為	水風										
力土	の	土土の	の	の	性態量	害質障	水ベリ	の	蝕蝕										
可の層	の	の乾の	の水水潤	肥肥定塩	石苦加磷	害質障	の危危	傾傾	蝕蝕										
能の礫	土着硬乾	性性度	沃	基状豊	灰土里酸要	有害無	度度	斜向斜	度性性										
性厚	難	性性度	力力態	量" "素度															
等深含																			
級さ	さ	量易	湿	度	否	性	性	斜	蝕										
	t d g p	w	f	n	i	a	s	e											
■				3 2 2		1 1 (2)		1 2 1		1	1 1 1 1 1	■	1 3		1 1		1 - -		1 1 1
簡略分級式    ■di  tgp(w)																			

A 土壤区の特徴

この土壤区は湯の里統に属する。表土の厚さは20cm前後で中庸であるが有効土層は次層以下礫層で浅い。土性は微粒質で粘着性中庸のため、耕起・碎土や、困難である。保水性・透水性大で過乾のおそれがある。

保肥力大、固定力中、塩基状態良好で自然肥沃度は高い、養肥分はいずれも極めて多い。礫層が浅いのが障害であるが災害性はなく、侵蝕のおそれはない。

B 植生及び利用状況

概ね畑地、草地である。

C 地力保全上の問題点

表土に礫の多いところはまず除礫すること、また有機物施用を欠かさず、地力の維持につとめることが望ましい。

D 分布

北海道紋別郡遠軽町字白竜、千代田、弥生、湯の里、瀬戸瀬、若咲内の一部

記載責任者    宮 脇    忠 (北海道立中央農業試験場)  
日 付                      昭和44年3月31日

留 岡 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm前後で腐植含量4%内外、土性はLiCを主とする。色は10YRで明度3、彩度3~4。発達弱度の細粒状構造が多く、細孔を含む。ち密度1.1~1.4で疎、PH(H<sub>2</sub>O)5.5前後、下層との境界は平坦判然である。

第2層は厚さ15cm前後で腐植含量3%内外、土性はLiCを主とする。色は10YRで明度4、彩度1~2、柱状構造で細孔に富む。赤褐の脈状斑あり、ち密度1.5前後で疎、PH(H<sub>2</sub>O)5.5~6.0、なおこの層の下部に淡黄褐灰の火山灰層(2~3cm)を含む場合がある。下層との境界平坦明瞭である。

第3層は厚さ15cm前後で腐植含量2%以下、土性はLiCを主とする。色は2.5Yで明度5、彩度1~2、柱状構造で、明橙褐の脈状斑含む。ち密度1.5前後で疎、PH(H<sub>2</sub>O)6前後、下層との境界は平坦漸変である。

第4層は厚さ25cm前後で腐植を欠き、土性はHCを主とする。色は2.5GYで明度7~8、彩度1で弱グライを呈している。柱状構造もしくは均質連結状を呈す。明褐の管状斑、脈状斑に富む。ち密度1.5前後で疎、PH(H<sub>2</sub>O)6前後、下層との境界は平坦判然である。

第5層は概ね70cm以下で、腐植を欠き、土性はC(農学会法触感)を主とする。色は10GYで明度5~6、彩度1でグライ層である。均質連結状で赤褐の管状斑、脈状斑を含む。稍密な堆積である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 紋別郡遠軽町字留岡 試坑No.29

第1層	0~15cm	腐植を含む暗褐(10YR3/4)のLiC。発達弱度の細粒状構造で細孔含む。ち密度1.2で疎、PH(H <sub>2</sub> O)5.5、調査時の湿り半乾、層界平坦判然
第2層	15~26cm	腐植を含む黄褐灰(10YR4/2)のLiC。柱状構造で細孔富む。赤褐の脈状斑あり。ち密度1.4で疎、PH(H <sub>2</sub> O)5.7、調査時の湿り半乾、層界平坦明瞭。
第3層	26~29cm	腐植を欠く淡黄褐灰(10YR7/2)のS~SSL(農学会法触感)噴出源不明の火山灰層。調査時の湿り半湿。層界平坦明瞭。
第4層	29~45cm	腐植のある黄褐灰(2.5Y5/2)のLiC。柱状構造。明橙褐の脈状斑含む。ち密度1.6で疎、PH(H <sub>2</sub> O)6.0。調査時の湿り湿。層界平坦漸変。
第5層	45~68cm	腐植を欠く淡黄灰(2.5GY7/1)のHC、柱状構造もしくは均質連結状明褐の管状~脈状斑富む。ち密度1.3で疎、PH(H <sub>2</sub> O)6.0。調査時の湿り湿。層界平坦判然。(弱グライ)
第6層	68cm以下	腐植を欠く緑灰(10GY5/1)のC(農学会法触感)、均質連結状。赤褐の管状斑含む。調査時の湿り潤。稍密。(グライ)

代表的断面の分析成績

紋別郡遠軽町字留岡 試坑 No 29

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土 性	現 地 容 積 重 g	真 比 重	全炭素 %	全窒素 %	炭 素 率 %	腐 植 %
			粗 砂	細 砂	シルト	粘 土							
1	0~15	5.9	4.1	30.4	33.4	32.1	LiC	154		2.53	0.292	8.7	4.1
2	15~29	6.6	5.4	24.7	31.3	38.6	LiC	138		1.68	0.199	8.4	2.7
3	29~45	6.6	5.7	23.9	33.6	36.8	LiC	150		0.11	0.150	7.4	1.8
4	45~68	6.2	4.0	13.0	35.7	47.3	HC			-	-	-	-

層位	PH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷酸吸収 係 数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.5	4.5	1.3	30.2	18.0	6.5	0.2	60	1,142	9.4
2	5.7	4.7	1.0	32.3	17.3	5.9	0.4	54	1,188	7.3
3	6.0	4.7	0.4	32.0	18.3	6.8	0.5	57	1,335	8.6
4	6.0	4.2	5.5	35.4	18.9	2.7	0.5	53	1,356	tr

※ 乾土あたり%

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては学田統、向遠軽統、清川統、福路統、湯の里統があり、学田統、向遠軽統とは洪積世堆積、清川統は扇状堆土と堆積様式が異なり、福路統、湯の里統は下層に礫層をもつ乾性の沖積で、本統とは乾湿が異なるのでそれぞれ区分される。

A-3 母 材 半固結水成岩 (砂岩・凝灰岩)

A-4 堆積様式 水積 (河成)

B 地 形 低地

C 気 候 年平均気温 5.8℃ 年降水量 860.7mm

D 植生及び利用状況

殆んど耕地化され、畑作物、牧草が作付されている。

E 農業上の留意事項

排水

F 分 布 北海道紋別郡遠軽町字留岡、学田の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
留 岡 - 留 岡	■wllpna

② 土壤区別説明

留 岡 統 一 留 岡 区

示 性 分 級 式 (畑)

土	壤表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵																												
生	効	表表表	透保湿	保固土	置	有微酸	有物	增地	自傾人	侵耐耐																										
産	土	土	然	層	換	有微酸	害理	冠す	然斜為	水風																										
力	土	土の	水水潤	肥肥定	の性	態量	害物	害の	の傾	蝕蝕																										
可	の	のの	の乾	肥定塩	石苦加	磷	害質	害の	の傾	蝕蝕																										
能	の	の粘	の水	基	灰土里	酸要	障の	害の	傾方	蝕蝕																										
性	厚	難	硬乾	沃	狀	豐	有	無	斜向斜	度性性																										
等	深	含	性性	力力	態	量	素度	度	度	度																										
級	さ	量	易	湿	度	否	性	性	斜	蝕																										
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e																									
					3	3	2		3	2	3		1	2	1		1	1	3	2	1	1		1	1		2	1		1	--		1	1	1	1
簡略分級式		wlpna																																		

A 土壤区の特徴

この土壤区は留岡統に属する。表土の厚さは25~30cmと深く、有効土層も1m以下で深い。土性は微粒質で粘着性強く、農具の使用はやゝ困難である。下層はち密度が小さいが土性が粘着で、透水性が小さく弱グライ~グライを示し強い湿性を呈している。

保肥力は、大、磷酸固定力は中庸、塩基状態は良で自然肥沃度は良効である。置換性塩基は石灰、苦土に富み、加里は少なく、有効態磷酸を中庸にもつ。特殊の障害性はないが降雨時に一時的に冠水するおそれがある。

B 植生及び利用状況

殆んど耕地化されており、畑地、牧草地として利用されている。

C 地力保全上の問題点

4~5年前は水田だつたところで、強い湿性を呈しているので暗渠等の施工による排水がまず必要である(一部排水未完)、また有機物の施用を欠かさず、地力の維持、増進につとめること。また加里含置が少ないので加里の増施が望まれる。

D 分布

北海道紋別郡遠軽町字留岡、学田の一部

記載責任者	宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)
日 付	昭和44年3月31日

隠 沢 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15～20cmで腐植含量4%内外、土性はSLを主とし、一部LICもある。色は10YRで明度2～3、彩度2～3。未～半風化の砂岩、凝灰岩、流紋岩の半角～円礫を含む。発達弱度の細粒状構造が多い。ち密度6～16で頗る疎～疎。PH (H<sub>2</sub>O) 5.5前後、下層との境界は平坦～波状判然である。

第2層は厚さ15～25cmで腐植含量1%以下、土性はSLが多い。色は10YR～2.5Yで明度5～6、彩度2～4、半角～円礫を含む。単粒状でち密度は12～14で疎。PH (H<sub>2</sub>O) 6.0前後、下層との境界は平坦明瞭である。

第3層は厚さ10cm前後で腐植を欠き、土性はSLが多い。色は2.5Yで明度3～6、彩度2。単粒状でち密度11～12で疎。下層との境界は平坦漸変である。

第4層は厚さ15cm前後で腐植を欠き、土性はSが多い。色は2.5Yで明度5～7、彩度2～3。単粒状でち密度15前後で疎。赤褐の雲状斑を含む。下層との境界は平坦明瞭である。

第5層は概ね65cm以下で砂岩、凝灰岩、流紋岩の未風化半角礫層である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 紋別郡遠軽町字栄野 試坑No 24

第1層	0～18cm	腐植を含む黒褐 (10YR 2/2) のSL、発達弱度の粒～細粒状構造、細孔含む。ち密度6で頗る疎。PH (H <sub>2</sub> O) 5.6。調査時の湿り半乾。半角礫含む。層界平坦判然
第2層	18～43cm	腐植を欠く灰黄橙 (10YR 6/3) のSL。単粒状で円～半角礫を含む。ち密度12で疎。PH (H <sub>2</sub> O) 6.4。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。
第3層	43～50cm	腐植を含む黒褐 (2.5Y 3/2) のSL (農学会法触感) 単粒状で半角礫を含む。ち密度11で疎。調査時の湿り半湿。層界平坦漸変。
第4層	50～64cm	腐植を欠く黄褐灰 (2.5Y 5/2) のS (農学会法触感)。単粒状で赤褐の雲状斑を含む。ち密度14で疎。調査時の湿り湿。層界平坦明瞭。
第5層	64cm以下	砂岩、凝灰岩、流紋岩の未風化半角礫よりなる礫層。



代表的断面の分析成績

紋別郡遠軽町字栄野 試坑 No. 24

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %				土性	現地容積重 $g$	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~18	2.8	40.3	32.9	16.4	10.4	SL	1.46		2.03	0.227	8.9	3.4
2	18~43	2.1	37.9	45.5	9.1	7.5	SL	1.40		0.59	0.075	8.0	1.0

層位	PH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.6	6.2	0.1	27.1	14.8	1.0	0.8	55	650	36.6
2	6.4	4.8	0.8	10.1	7.4	0.6	0.5	73	533	3.7

※ 乾土あたり%

A-2 他の土壌統の関係

本統に隣接する統としては学田統、湯の里統、福路統、若咲内統、社名淵統、栄野統、弥生西統、清川統があり、湯の里統、福路統とは表土の腐植含量、乾湿により、その他とは堆積様式にちがいがあるのでそれぞれ区分される。

A-3 母材 半固結水成岩 (砂岩・凝灰岩)

固結火成岩 (流紋岩)

A-4 堆積様式 水積 (河成)

B 地形 低地

C 気候 年平均気温 5.8℃ 年降水量 860.7mm

D 植生及び利用状況

殆んど耕地化されており、畑地、草地として利用されている。

E 農業上の留意事項

有機物施用

F 分布 北海道紋別郡遠軽町字栄野、若松、美山、清川、瀬戸瀬の一部

調査及び記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
隠沢-隠沢	It dw

② 土壤区別説明

隠 沢 統 - 隠 沢 区

示 性 分 級 式 (畑)

土	壤	表	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵														
生	効	土	表	表	表	透	保	湿	固	土	置	有	微	酸	有	物	増	地	自	傾	人	侵	耐	耐	
産	土	土	耘	土	土	然	層	分	換	" "	効	害	理	冠	す	冠	す	冠	す	冠	す	冠	す	冠	す
力	土	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
可	の	層	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の	の
能	の	礫	土	粘	土	沃	基	灰	土	里	酸	要	害	質	的	害	危	險	傾	方	傾	方	傾	方	
性	厚	難	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
等	深	含	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性	性
級	さ	さ	量	易	湿	度	否	性	性	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜	斜
<p>t d g p                          w                          f                          n                          i                          a                          s                          e</p> <p>II II II I I 1 1 1 1 II 1 3 2 I 1 1 1 I 1 2 1 1 1 2 I 1 1 I 1 1 I 1 - - I 1 1 1</p>																									
<p>簡略分級式      I I t d w</p>																									

A 土壤区の特徴

この土壤区は隠沢統に属する。表土の深さは約20cmで中庸。有効土層も60～70cmで中庸である。表土の土性の中粒質で耕起・砕土は容易である。透水性大、保水性小であるが地下水の影響でやゝ湿性を呈して、一時的に過湿となるおそれがある。

保肥力大、固定力ごく小で塩基状態良く、自然肥沃度は高い。養肥分では苦土が中庸でその他はいずれも多く、酸度も中である。特殊な障害性、災害性はなく、侵蝕のおそれも少ない。

B 植生及び利用状況

概ね耕地で、畑地、草地となつている。

C 地力保全上の問題点

一般に腐植が少ないので堆厩肥等有機物を施用すること。

暗渠は概ね施工済みであるが集水渠等を設けて排水を完全なものとする。

D 分布

北海道紋別速軽町字栄野、若松、美山、清川の一部

記載責任者      宮 脇      忠 (北海道立中央農業試験場)  
日 付                          昭和44年3月31日

栄 野 統

(1)

A - 土壌統の特徴

A - 1 断面の特徴

第1層は厚さ15~20cm、腐植含量3~4%、土性はLを主とする。色は7.5 YRで明度2~3、彩度2~4。未~半風化の流紋岩質凝灰岩の角~半角礫を含み~富む。発達弱度の細粒状構造のものが多く、ち密度1.1~1.3で疎、PH (H<sub>2</sub>O) 6前後。下層との層界平坦判然である。

第2層は厚さ25~30cm、腐植を欠き、土性はLを主とする。色は7.5 YRで明度4、彩度4、未~半風化凝灰岩礫に富み~頗る富み、礫土のところもある。発達弱度の細塊状構造で細孔に富む。ち密度は1.7~2.0で疎~中。PH (H<sub>2</sub>O) 5.0~5.5。下層との境界平坦漸変である。

第3層は概ね45cm以下で明褐色の未風化流紋岩質凝灰岩の半角礫よりなる礫層である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 紋別郡遠軽町字栄野 試坑No.23

第1層	0~16cm	腐植を含む暗褐 (7.5 YR 3/4) のL、凝灰岩の未風化半角礫に富む。発達弱度の細粒状構造、細孔富む。ち密度1.1で疎。PH (H <sub>2</sub> O) 5.9。調査時の湿り半乾。層界平坦判然。
第2層	16~44cm	腐植を欠く褐 (7.5 YR 4/4) の礫土で礫間にLを挟む。礫は凝灰岩で未風化半角礫。ち密度は稍密、調査時の湿り半乾。層界平坦漸変。
第3層	44cm以下	流紋岩質凝灰岩の未風化中半角礫よりなる礫層。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

紋別郡遠軽町字栄野 試坑No.23

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	現地容積 重g	真比 重	全炭素 %	全窒素 %	炭素 率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~16	2.3	43.3	19.8	25.4	11.5	L			1.96	0.175	11.2	3.3
2	16~44		34.4	23.8	33.5	8.3	L			-	-	-	-

層位	PH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収 係 数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.9	5.1	3.0	13.1	7.9	0.5	0.1	60	609	4.1
2	5.8	4.6	1.8	9.3	3.0	1.1	0.3	32		

※ 乾土あたり%

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては社名淵統、弥生西統、隠沢統、湯の里統、清川統があり、社名淵統、弥生西統とは母材、隠沢統、湯の里統、清川統とは堆積様式が異なるのでそれぞれ区分される。

A-3 母材 半固結水成岩（流紋岩質凝灰岩）

A-4 堆積様式 崩積

B 地形 標高120～200mの丘陵地

C 気候 年平均気温 5.8℃ 年降水量 860.7mm

D 植生及び利用状況

大部分耕地化され、畑地、草地として利用されている。

E 農業上の留意事項

有機物施用、加里肥料の増施。

F 分布

北海道紋別郡遠軽町字美山、若松、栄野、清川、丸大の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
栄 野 - 栄 野	■dltgpfni se

② 土壌区別説明

栄野統 - 栄野区

示性分級式(畑)

土 壤 生 産 力 可 能 性 等 級	表 効 土 の 層 の 深 さ	有 効 土 の 厚 さ	表 土 の 粘 着 性	表 表 土 の 乾 硬 性	土 地 の 水 分 潤 沢 性	透 透 保 湿 性	自 然 潤 沢 性	養 分 固 定 力	置 換 性 基 状 態	有 機 質 含 量	酸 性 養 分 素 質	障 害 物 質 有 無	災 害 危 險 度	傾 斜 危 險 度	侵 蝕 危 險 度										
	t	d	g	p		w		f		n		i	a	s	e										
	II	II	II	II	1	1	2	1	II	2	1	2	II	1	3	I	1	1	II	2	--	II	2	2	1
簡略分級式     II d II t g p f n i a s e																									

**A 土壌区の特徴**

この土壌区は栄野統に属する。表土の厚さは15~20cmで中庸、有効土層は40~50cmより礫層のため稍浅い。表土の土性は中粒質で粘着性中~稍強く、耕起・砕土は比較的容易であるが、表土の礫含量多く、農具の使用は抵抗を感じる。透水性は大で過湿のおそれはない。

保肥力中、固定力は極少で塩基状態は中である。置換性塩基は石灰多く、苦土中庸、加里は少なく、有効態の磷酸は中庸である。災害性はなく、下層が礫層で有効土層が浅いのが障害となつている。傾斜は3~8°で水蝕発生のおそれがある。

**B 植生及び利用状況**

殆んど耕地となつていて、畑地、草地として利用されている。

**C 地力保全上の問題点**

一般に腐植が少なく、養分の中でも加里が乏しいので有機物施用、加里肥料の増施につとめることが望ましい。なお、表土の礫含量多く、礫層の浅いところとか、傾斜の強いところは草地として利用したほうが良いと思われる。

**D 分布**

北海道紋別郡遠軽町字美山、若松、栄野、清川、丸大の一部

記載責任者    宮 脇    忠 (北海道立中央農業試験場)  
日 付                      昭和44年3月31日

彌 生 西 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm前後で腐植含量6%内外、土性はCLを主とし、玄武岩の腐朽～風化半角礫を含む。色は2.5YRで明度2、彩度4前後、発達弱度の細粒状構造で細孔に富む。ち密度は1.7で疎。PH (H<sub>2</sub>O) 5.5前後。下層との境界は平坦判然である。

第2層は概ね15cm以下で腐植を欠き、土性はCLを主とする。玄武岩の腐朽～風化半角小～中礫に頗る富む。色は2.5YRで明度3～4、彩度6～8。発達弱度の細塊状構造で細孔に富む。ち密度1.5～1.7で疎。PH (H<sub>2</sub>O) 5前後。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 紋別郡遠軽町字弥生 試坑No12

第1層	0～15cm	腐植に富む黒赤褐 (2.5 Y R 2 / 4) のCL、玄武岩の腐朽～風化小～中半角礫含む。発達弱度の細粒状構造、細孔富む。ち密度1.7で疎。PH (H <sub>2</sub> O) 5.5。調査時の湿り半乾。層界平坦判然。
第2層	15cm以下	腐植を欠く暗赤褐 (2.5 Y R 3 / 6) のCL、玄武岩の腐朽～風化小～中半角礫に頗る富む。発達弱度の細塊状構造。細孔富む。ち密度1.6で疎。PH (H <sub>2</sub> O) 5.0。調査時の湿り半乾。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

紋別郡遠軽町字弥生 試坑No12

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重g	真比 重	全炭素 %	全窒素 %	炭素 率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0～15	6.6	22.7	25.8	29.0	22.5	CL			3.60	0.287	12.5	5.8
2	15以下	10.7	31.6	26.2	20.3	21.9	CL						

層位	PH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			飽和度 %	磷酸吸収 係 数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.5	4.2	5.5	26.3	10.7	2.7	0.8	41	1.248	3.0
2	5.0	4.0	30.5	26.6	6.3	3.1	2.1	24	1.595	8.1

※ 乾土あたり%

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては弥生統、社名淵統、栄野統、福路統、隠沢統、見晴統、清川統があり社名淵統、栄野統とは母材が異なり、その他とは堆積様式が異なるのでそれぞれ区分される。

A-3 母材 固結水成岩（玄武岩）

A-4 堆積様式 崩積

B 地形 標高100～300mの丘陵地。

C 気候 年平均気温 5.8℃ 年降水量 860.7mm

D 植生及び利用状況

大部分畑地、草地として利用されているが一部山林となつている。

E 農業上の留意事項

深耕、有機物施用

F 分布 北海道紋別郡遠軽町字弥生、社名淵の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
弥生西-弥生西	II t p f s

② 土壌区別説明

彌 生 西 統 - 彌 生 西 区

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵
生	効	土	表	表	透	保	固	置	有	微	酸
産	土	耘	土	地	然	層	分	換	"	"	効
力	土	の	風	の	の	水	潤	肥	定	塩	の
可	の	層	の	乾	の	水	潤	肥	定	塩	の
能	の	礫	粘	土	基	沃	状	豊	含	"	"
性	厚	難	土	着	硬	乾	沃	状	豊	含	"
等	深	含	性	性	性	性	度	力	態	"	"
級	さ	量	易		湿	度	否		性	性	斜
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e
II	II	I	I	II	2	3	2	I	1	1	1
					II	1	2	2	I	1	1
									2	1	2
									I	1	1
									I	1	1
									II	2	1
											I
											1
											1
											1
											1
簡略分級式		II t p f s									

A 土壤区の特徴

この土壤区は弥生西統に属する。表土の厚さは15cm前後で浅いが有効土層は1m近くあつて深い。表土の土性は細粒質で粘着性強く、かつ傾斜のため耕起・碎土は稍困難である。透水性、保水性は大である。

保肥力は大、磷酸固定力と塩基状態は中庸、下層土の酸性が強く、自然肥沃度は中位である。作土は置換性塩基に富み、有効態の磷酸は中程度にもつ。障害性、災害性は存在せず、侵蝕も殆んど認められないが畑地として利用されているところは水蝕のおそれがある。

B 植生及び利用状況

大部分が畑地、草地として利用され、一部山林で未利用地である。

C 地力保全上の問題点

作土が浅いので深耕を要する。その際は下層は強い酸性であるので有機物、炭酸石灰等の施用が必要である。傾斜の強いところはなるべく草地として利用したほうがよい。

D 分布

北海道紋別郡遠軽町字弥生、社名淵の一部

記載責任者 官 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)  
日 付 昭和44年3月31日

千 代 田 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ25cm前後で腐植含量5~6%、土性はLiCを主とする。色は10YRで明度2~3、彩度2~4。発達弱度の細粒~粒状構造で細孔を含む。ち密度1.3~1.5で疎。PH(H<sub>2</sub>O)6.1。下層との境界は平坦判然である。

第2層は概ね25cm以下で腐植を欠き、土性はCLのものが多し。流紋岩の未風化中半角礫を含む。均質連絡状もしくは柱状構造である。斑状の酸化沈積物を含む。ち密度2.9~3.2で甚密。PH(H<sub>2</sub>O)5.3。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 紋別郡遠軽町字千代田 試坑No.4

第1層	0~24cm	腐植に富む黒褐(10YR2/3)のLiC、発達弱度の細粒~粒状構造、細孔含む。ち密度1.3で疎。PH(H <sub>2</sub> O)6.1。調査時の湿り半乾。層界平坦判然。
第2層	24cm以下	腐植を欠く淡黄灰(2.5Y7/2)のCL。流紋岩の未風化中半角礫を含む。均質連絡状もしくは柱状構造、酸化沈積物含む。ち密度2.9で甚密。PH(H <sub>2</sub> O)5.3。調査時の湿り湿。



代表的断面の分析成績

紋別郡遠軽町字千代田 試坑No.4

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成%				土性	現地容積重g	真比重	全炭素*	全窒素*	炭素率	腐植%
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~24	5.3	16.0	23.9	29.0	31.1	LiC			3.31	0.332	10.0	5.4
2	24cm以下	3.8	36.8	23.2	24.1	15.9	CL			-	-	-	-

層位	PH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収 係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	6.1	5.5	0.5	27.2	19.9	1.7	0.5	73	920	26.6
2	5.3	4.4	2.0	16.0	6.6	0.9	0.2	41	724	tr

\* 乾土あたり%

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては若咲内統、湯の里統、遠軽中央統、社名淵統があり、社名淵統とは母材と礫含量が異なり、その他とは堆積様式が異なるのでそれぞれ区分される。

A-3 母材 固結火成岩 (流紋岩)

A-4 堆積様式 崩積

B 地形 標高150m前後の斜面

C 気候 年平均気温 5.8℃ 年降水量 860.7mm

D 植生及び利用状況

殆んど畑地、草地に利用されている。

E 農業上の留意事項

心土破碎、深耕、有機物施用

F 分布 北海道紋別郡遠軽町字千代田、豊里の一部

調査及び記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
千代田-千代田	di  tpwse

② 土壌区別説明

千代田統 - 千代田区

示性分級式(畑)

土	表	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵																
生	効	表	表	表	透	保	置	有	有	増	自	侵														
産	土	土	土	土	然	固	換	微	物	地	傾	耐														
力	土	土	土	土	層	層	"	酸	害	冠	然	水														
可	の	の	の	の	の	の	"	量	理	す	為	風														
能	層	の	の	の	水	肥	石	要	物	水	の	蝕														
性	の	粘	粘	粘	潤	定	灰	要	質	り	傾	蝕														
厚	磔	土	土	土	沃	状	土	素	障	の	方	蝕														
等	深	難	着	硬	沃	豊	里	度	害	危	斜	性														
級	さ	量	易	湿	度	否	酸	無	無	険	斜	性														
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e															
	■	■	I	II	3	2	2	I	1	2	1	1	■	1	3	I	1	1	II	2	--	II	2	2	1	
簡略分級式		■diItpwse																								

**A 土壌区の特徴**

この土壌区は千代田統に属する。表土の厚さは25cm前後で中庸であるが次層が極めて堅密な堆積のため有効土層は浅い。表土の土性は微粒質で粘性中庸～稍強く、耕起、碎度はやゝ困難である。保水性中庸であるが透水性やゝ小さく、弱い湿性を呈している。

保肥力は大、磷酸固定力中庸で塩基状態良く、自然肥沃度は高い。置換性加里が中庸の他は苦土、石灰、磷酸に富み、PHも6.0 (H<sub>2</sub>O) 前後である。災害性はないが、堅密層が浅いのが障害となっている。また5～8°の斜面で水蝕が認められる。

**B 植生及び利用状況**

殆んど畑地、草地となっている。

**C 地力保全上の問題点**

25cm以下に堅密層が存在するため有効土層が浅いので心土破砕施工と共に排水稍不良であるので排水完備の必要がある。また深耕することにより漸次土層の深化を計るべきでその際は有機物、石灰、熔磷等土改資材として施用すると効果があると思われる。

**I 分布**

北海道紋別郡遠軽町千代田、豊里の一部

記載責任者

宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付

昭和44年3月31日

社 名 測 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15~18cmで腐植含量8%内外、未~半風化の砂岩・安山岩の半角礫を含む。土性はCLを主とする。色は7.5YRで明度2、彩度2のものが多い。発達中度~強度の細粒状構造で細孔を含む。ち密度1.6で疎。PH(H<sub>2</sub>O)6前後。下層との境界は平坦判然である。

第2層は厚さ20cm前後で腐植含量3%内外、未~半風化の砂岩・安山岩の半角礫に富む。土性はLを主とする。色は7.5YRで明度3~4、彩度3~4。発達中度の細粒状構造と弱度の細塊状構造で細孔に富む。ち密度1.9で中。PH(H<sub>2</sub>O)6前後。下層との境界は平坦明瞭。

第3層は概ね35~40cm以下で砂岩・安山岩の半角礫よりなる礫層である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 紋別郡遠軽町字千代田 試坑No.6

第1層	0~16cm	腐植に富む黒褐(7.5YR2/2)のCL、砂岩・安山岩の半角礫を含む。発達中~強度の細粒状構造。細孔含む。ち密度1.6で疎。PH(H <sub>2</sub> O)5.9。調査時の湿り半乾。層界平坦判然。
第2層	16~37cm	腐植を含む暗褐(7.5YR3/4)のL、砂岩・安山岩の半角礫に富む。発達中度の細塊状構造。細孔富む。ち密度1.9で中。PH(H <sub>2</sub> O)6.1。調査時の湿り半乾。層界平坦明瞭。
第3層	37cm以下	未~半風化の砂岩・安山岩の小~中半角礫よりなる礫層。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

紋別郡遠軽町字千代田 試坑No.6

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 $\rho$	真比 重	全炭素 %	全窒素 %	炭素 率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~16	5.9	14.0	30.1	31.6	24.3	CL			4.66	0.412	11.7	7.8
2	16~37	5.4	17.5	33.4	35.1	14.0	L			2.02	0.408	5.0	3.3

層位	PH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収 係 数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.9	4.9	0.5	34.6	23.1	2.3	0.4	67	1.121	28.9
2	6.1	4.6	1.4	26.1	11.4	2.7	0.4	44	1.427	4.2

※ 乾土あたり%

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては学田統、隠沢統、湯の里統、弥生西統、千代田統、栄野統、見晴統、清川統があり、弥生西統、千代田統、栄野統とは母材が異なり、その他とは堆積様式が異なるのでそれぞれ区分される。

A-3 母材 固結火成岩（安山岩）  
半固結水成岩（砂岩）

A-4 堆積様式 崩積

B 地形 標高150～200mの丘陵地

C 気候 年平均気温 5.8℃ 年降水量 860.7mm

D 植生及び利用状況

大部分畑地、草地として利用されているが一部山林となつている。

E 農業上の留意事項

加里肥料の増施

F 分布

北海道紋別郡遠軽町字留岡、見晴、千代田、若松の一部

調査及び記載責任者 宮脇 忠（北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
社名淵一社名淵	■diIlgps

② 土壌区別説明

社名淵統 - 社名淵区

示性分級式(畑)

土	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵
生	効	土	表	表	透	保	固	置	有	微	酸
産	土	土	表	表	然	層	分	換	効	物	地
力	土	の	土	土	の	の	の	性	態	害	冠
可	の	の	の	の	水	水	潤	肥	肥	質	水
能	の	の	粘	土	乾	肥	定	塩	の	害	の
性	厚	難	土	着	沃	基	状	灰	土	障	危
等	深	含	性	性	性	力	力	量	素	無	險
級	さ	さ	量	易	湿	度	否	性	性	斜	蝕
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e
■	I	■	II	II	2	2	2	I	1	1	1
	I	1	1	1	I	1	2	1	I	1	2
	■	1	3	I	1	1	II	2	--	I	1
	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
簡略分級式	■ciIlgps										

A 土壌区の特徴

この土壌区は社名滞統に属する。表土の浅さは35cm内外で深く、有効土層は40cm内外で浅い。表土の土性は細粒質で、粘着性中庸であるが傾斜のため農具の使用はやゝ困難を感じる。

粒状構造の発達よく、透水性、保水性大で、侵蝕のおそれは現状では小さい。

保肥力大、磷酸固定力は中庸で、塩基状態良好である。置換性塩基は加里が中庸の他は多く、有効態の磷酸も多い。

災害性はなく、有効土層が浅いのが障害となつている。

B 植生及び利用状況

大部分が畑地、草地として利用されており、一部山林として放置されている。

C 地力保全上の問題点

養分分に富み、特に問題はないが礫の多いところや、傾斜の強いところは草地として利用したほうが良い。肥培管理に充分留意すること。特に加里分が少なくなるおそれがあるので増施すること。

D 分布

北海道紋別郡遠軽町字留岡、見晴、千代田、若松の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

清 川 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm前後で腐植含量8~9%、土性はLiCを主とする。凝灰岩・砂岩・安山岩・流紋岩の未~半風化、角~半角礫の小~中礫に頗る富む。色は10YRで明度2、彩度1~2のものが多い。発達弱度の細粒状構造で細孔に富む。ち密度10前後で頗る疎~疎。PH(H<sub>2</sub>O)5.6。下層との境界平坦明瞭である。

第2層は概ね15cm以下で腐植を欠く。凝灰岩・砂岩・安山岩・流紋岩の角~半角礫よりなる礫層で、礫間にL(農学会法触感)を狭む。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 紋別郡遠軽町字清川 試坑16

第1層	0~15cm	腐植に富む黒(10YR2/1)のLiC、未~半風化の半角~角礫に頗る富む。発達弱度の細粒状構造。細孔富む。ち密度8で頗る疎。PH(H <sub>2</sub> O)5.6。調査時の湿り半乾。下層との境界は平坦明瞭である。
第2層	15cm以下	未~半風化の凝灰岩・砂岩・安山岩・流紋岩の角~半角礫よりなる礫層で礫間にL(農学会法触感)を充填する。

代表的断面の分析成績

紋別郡遠軽町字清川 試坑 No. 16

層位	採取部位 cm	水分 %	粒径組成 %			粘土	土性	現地容積重 $g$	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト								
1	0~15	4.6	23.4	25.4	23.9	27.3	LiC			5.10	0.456	11.7	8.4

層位	PH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			飽和度 %	磷酸吸収 係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.6	4.9	0.6	28.4	26.9	4.9	0.7	95	1.101	6.7

※ 乾土あたり%

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては学田統、若咲内統、遠軽中央統、福路統、湯の里統、隠沢統、留岡統、社名淵統、栄野統があり、いずれも堆積様式が異なるのでそれぞれ区分される。

A-3 母材 半固結水成岩 (凝灰岩・砂岩)  
固結火成岩 (安山岩・流紋岩)

A-4 堆積様式 水積 (扇状堆土)

B 地形 丘陵地と低平地の接触部に位置し、緩傾斜を有する。

C 気候 年平均気温 5.8℃ 年降水量 860.7mm

D 植生及び利用状況

殆んど畑地、草地として利用されている。

E 農業上の留意事項

除礫、有機物施用、客土

F 分布 北海道紋別郡遠軽町字清川、湯の里、柏、瀬戸瀬、野上、留岡、見晴、千代田の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
清 川 - 清 川	■dgi  tpse

② 土壌区別説明

清川統 - 清川区

示性分級式(畑)

工 壤	表 有	表 表	耕 土	土	自	養	障	災	傾	侵																							
生 産 力 可 能 性 等	効 土 の 層 の 厚 さ	表 土 の 礫 深 さ	表 土 の 粘 土 着 性 強 さ	表 土 の 乾 硬 乾 性 度	透 水 性	保 水 性	置 換 性 塩 基 状 態 力	有 機 酸 量 要 素	有 機 物 害 害 性	増 地 冠 す べ り の 危 険 度	自 傾 人 傾 方 斜 向 斜 度	侵 耐 性 風 蝕 蝕 度																					
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e																						
	II	II	III	II	3	2	2	I	1	1	I	1	2	1	I	1	2	1	2	III	1	3	I	1	1	II	2	1	1	II	2	2	1
簡略分級式		II d g i I t p s e																															

A 土壤区の特徴

この土壤区は清川統に属する。表土の厚さと有効土層が概ね15cmと浅い。表土の土性は微粒質で粘着性は中程度で耕起・碎土にやゝ困難を感じる。また礫が多く農具の使用に抵抗を感じる。透水性、保水性は大で過湿のおそれは少ない。

保肥力大、磷酸固定力中庸で、塩基状態は極めて良い。置換性塩基はいずれも多く、有効態の磷酸は中庸で酸度も中程度～弱い。災害性はなく、表土の厚さと有効土層が浅いのが障害となっている。また水蝕を受けているところが見受けられ、侵蝕のおそれがある。

B 植生及び利用状況

殆んど畑地、草地として利用されている。

C 地力保全上の問題点

表土、有効土層のいずれも浅く、礫が多いので、中以上の石礫は除いたほうが良い。また客土することが必要で、その際は有機物施用もあわせて行なうこと。

D 分布

北海道紋別郡遠軽町清川、湯の里、柏、瀬戸瀬、野上、留岡、見晴、千代田の一部

記載責任者 宮脇 忠(北海道立中央農業試験場)

日付 昭和44年3月31日

見 晴 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20～25cmで腐植含量5%内外、土性はLicのものが多し。色は2.5YRで明度3～4、彩度3～6、玄武岩の半風化～風化半角礫を含む。発達弱度の細粒状構造が多く、細孔に富む。ち密度1.0前後で頗る疎。PH(H<sub>2</sub>O) 5.5前後。下層との境界は平坦判然である。

第2層は厚さ25cm前後で腐植含量3%内外、土性はLicのものが多し。色は1.0Rで明度3～5、彩度3～4、玄武岩の半風化～風化半角礫を含む。発達中程度の細塊状構造が多く、細・小孔に富む。ち密度1.2～1.5で疎。PH(H<sub>2</sub>O) 6前後。下層との境界は平坦で漸変である。

第3層は概ね45～50cm以下で腐植を欠き、土性はCLを主とする。色は1.0Rで明度5～6、彩度3～4、玄武岩の半風化半角礫を含む。発達弱度の細塊状構造もしくは柱状構造である。細孔に富み、小孔を含む。ち密度1.5前後で疎。PH(H<sub>2</sub>O) 6.5前後である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 紋別郡遠軽町字見晴 試坑No.28

第1層	0～23cm	腐植を含む暗赤褐(2.5YR3/4)のLic、半風化～風化半角礫含む。発達弱度の細粒状構造、細孔に富む。ち密度1.0で頗る疎、PH(H <sub>2</sub> O) 5.6。調査時の湿り半乾。層界平坦判然。
第2層	23～46cm	腐植を含む灰赤褐(1.0R4/3)のLic、半風化～風化半角礫含む。発達中程度の細塊状構造、細小孔富む。ち密度1.3で疎。PH(H <sub>2</sub> O) 5.9。調査時の湿り半乾、層界平坦漸変。
第3層	46cm以下	腐植を欠く灰赤褐(1.0R5/3)のCL、半風化半角礫含む。発達弱度の細塊状構造か柱状構造、細孔富み、小孔含む。ち密度1.4で疎。PH(H <sub>2</sub> O) 6.4。調査時の湿り半乾。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

紋別郡遠軽町字見晴 試坑No.28

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重g	真比 重	全※炭素 %	全※窒素 %	炭素率	腐植%
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0～23	6.4	9.3	25.3	31.5	33.9	Lic	175		2.85	0.315	8.9	4.6
2	23～46	6.9	6.4	23.5	30.2	39.9	Lic	148		1.99	0.277	7.9	3.2
3	46～	6.6	25.3	32.4	21.4	20.9	CL	162		—	—	—	—



層位	PH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 Mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.6	4.6	1.0	47.8	33.5	5.1	1.0	70	1314	tr.
2	5.9	4.8	0.6	50.2	36.1	7.4	0.4	72	1469	17.6
3	6.4	3.9	0.5	50.3	32.7	0.7	1.8	65	1483	24.4

※ 乾土あたり%

#### A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては留岡統、福路統、遠軽中央統、弥生西統、社名淵統、清川統があり、留岡統、福路統、遠軽中央統は河成沖積、弥生西統、社名淵統は崩積でそれぞれ堆積様式が異なり清川統とは母材が異なるので区別される。

#### A-3 母材 固結火成岩（玄武岩）

#### A-4 堆積様式 水積（扇状堆土）

B 地形 丘陵地と低平地の接触部で緩傾斜～平坦な扇状地。

C 気候 年平均気温 5.8℃ 年降水量 860.7mm

D 植生及び利用状況 殆んど畑地として利用されている。

E 農業上の留意事項 磷酸質肥料の増肥

F 分布 北海道紋別郡遠軽町字見晴の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 （北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和44年3月31日

### (2) 土壌統の細分

#### ① 土壌区一覧

土 壌 区 名	略式分級式
見晴一見晴	■PIn

#### ② 土壌区別説明

見 晴 統 一 見 晴 区

示 性 分 級 式 (畑)

土	壤	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵																								
生	効	土	表	表	表	透	保	置	有	有	增	自	優																							
産	土	土	耘	土	地	濕	然	換	微	物	地	傾	耐																							
力	土	の	の	の	の	潤	層	性	若	害	冠	斜	風																							
可	の	層	の	乾	水	肥	の	石	加	害	水	然	水																							
能	の	礫	粘	土	水	沃	塩	灰	磷	質	り	為	風																							
性	厚	の	土	着	乾	沃	基	灰	量	障	の	傾	触																							
等	深	含	難	硬	性	力	状	量	要	有	危	方	触																							
級	さ	量	易	湿	性	度	否	素	性	害	險	斜	性																							
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e																									
	■				■	3	3	2		1	1	1		1	2	1	■	1	1	2	3	1	2		1	1		1	1		1	—		1	1	1
簡略分級式			■ P ■ n																																	

A 土壤区の特徴

この土壤区は見晴統に属する。表土の厚さは25cm以上、有効土層は1m以下でいずれも深い。表土の土性は微粒質で粘着性強く、耕起、砕土は困難である。  
 透水性、保水性とも大で過湿のおそれはない。  
 保肥力は、大、磷酸固定力は中庸、塩基状態は良く、自然肥沃度は高い。  
 置換性塩基は石灰苦土に富み、加里は中庸である。有効態の磷酸は極めて少ないが次層以下は富む。一般的に養肥分は中庸である。  
 障害性、災害性はなく侵触も認められない。

B 植生及び利用状況 殆んど畑地として利用されている。

C 地力保全上の問題点

特に問題点はないが一般に磷酸含量が少ないので磷酸増肥に心がけるべきである。

D 分布 北海道紋別郡遠軽町字見晴の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

奥 社 名 測 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm前後で腐植含量4%内外、土性はCLのものが多し。色は10YRで明度3~4、彩度4~5。発達弱度の細粒状構造が多く、細孔を含む。ち密度21で中である。

PH (H<sub>2</sub>O) 5前後。下層との境界は平坦判然である。

第2層は厚さ10cm前後で腐植含量1%内外、土性はCLを主とする。色は10YRで明度4~5、彩度3~4。発達中度の塊状構造と弱度の細塊状構造で細孔に富み、小孔を含む。ち密度22で中である。PH (H<sub>2</sub>O) 5.5前後。下層との境界は平坦で漸変する。

第3層は厚さ15~20cmで腐植を欠き、土性はCLを主とする。色は10YRで明度5~6、彩度4~5、未風化~半風化の砂岩円礫を含む。発達中度の塊状構造と弱度の細塊状構造である。明橙褐の酸化沈積物を含む。ち密度26で密である。PH (H<sub>2</sub>O) 5.0~5.5。

第4層は概ね45cm以下で、未風化~半風化の砂岩円礫よりなる礫層である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 紋別郡遠軽町字白滝 試坑162

第1層	0~15cm	腐植を含む暗褐(10YR 3/4)のCL、発達弱度の細粒状構造、細孔含む。ち密度21で中、PH (H <sub>2</sub> O) 5.0、調査時の湿り半乾。層界平坦判然。
第2層	15~25cm	腐植のある灰黄褐(10YR 4/3)のCL、発達中度の塊状構造と弱度の細塊状構造。細孔富み、小孔含む。ち密度22で中、PH (H <sub>2</sub> O) 5.6、調査時の湿り半乾。層界平坦漸変。
第3層	25~43cm	腐植を欠く褐(10YR 4/6)のCL。発達中度の塊状構造と弱度の細塊状構造。未~半風化の円礫含む。ち密度26で密。PH (H <sub>2</sub> O) 5.3。調査時の湿り半湿。層界平坦明瞭。
第4層	43cm以下	未~半風化の砂岩円礫よりなる礫層。

代 表 的 断 面 の 分 析 成 績

紋別郡遠軽町字白滝 試坑162

層位	採取部位 cm	水分 %	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重 $\rho$	真比 重	全※炭素 %	全※窒素 %	炭素率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~15	4.3	16.5	29.9	32.3	21.3	CL		2.30	0.245	9.4	3.8	
2	15~25	3.6	15.8	30.4	32.9	20.9	CL		0.96	0.128	7.6	1.6	
3	25~	5.4	20.5	34.8	28.0	16.7	CL		—	—	—	—	

層位	PH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基me/100g			石灰飽和度%	磷酸吸収係数	有効態磷酸 Mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.0	3.9	15.5	20.0	5.9	1.7	0.3	30	814	2.9
2	5.6	4.0	15.8	18.4	6.9	3.1	0.2	38	903	2.1
3	5.3	4.0	14.5	23.5	9.4	5.4	0.2	40	1,038	tr.

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する統としては白竜統、弥生東統、弥生統、湯の里統、福路統、若咲内統、学田統があるが、いずれも堆積様式が異なるので区分される。

A-3 母材 半固結火成岩

A-4 堆積様式 水積（扇状堆土）

B 地形 丘陵地と低平地との接触部で緩傾斜地。

C 気候 年平均気温 5.8℃ 年降水量 860.7mm

D 植生及び利用状況

大部分畑地、草地として利用されているが一部山林である。

E 農業上の留意事項

有機物施用、酸性改良、加里肥料の増施。

F 分布 北海道紋別郡遠軽町字白竜・弥生・向遠軽

調査及び記載責任者 宮脇 忠（北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和44年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
奥社名淵一奥社名淵	Iditfnse

② 土壌区別説明

奥社名淵統一奥社名淵区

示 性 分 級 式 (畑)

土	表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵		
生	効土	表表表	透保湿	保固土	置	有微酸	有物	増地	自傾人	侵耐耐
産土	土	耘	然	層	分換	" " 効態	害理	冠す	斜為	水風
力土	の	土土の	水水潤	肥定塩	の	性苦加磷量	物	水べり	然斜為	触
可の層	の	の乾の	性性度	沃	基	石土里酸	害質	の	の	触
能の礫	土	粘土の	性性度	力力態	状	灰 " " 要	障	危	傾方	触
性厚	含	土着硬乾	性性度	力力態	量	量	有害	險	斜向斜	度性性
等深	易	性性さ	性性度	力力態	量	量	無性	險	斜向斜	度性性
級さ	量	易	湿	度	否		性	性	斜	触
	t d g p	w	f	n	i	a	s	e		
	II II I I 2 1 1 I 2 2 1 II 1 2 2 II 2 1 3 2 1 4 II 1 3 I 1 1 II 2 -- II 2 2 1									
簡略分級式 II d i II t f n s e										

A 土壤区の特徴

この土壤区は奥社名淵統に属する。表土の厚さは25cm前後稍々深く、有効土層は40~50cmで稍浅い。表土の土性は細粒質で粘着性弱く、耕起・砕土は容易である。

透水性、保水性は中庸で、過湿のおそれは少ない。

保肥力大であるが磷酸固定力、塩基状態は中庸で、自然肥沃度は中庸である。置換性の塩基は、苦土が多い他、石灰中程度で、加里は少なく、有効態の磷酸は中程度であるが、酸度はきわめて強い。一般に養分は少ない。災害性はないが、有効土層がやや浅いのが障害となつている。

また一部に水触のみられるところがあり、侵触のおそれがある。

B 植生及び利用状況

大部分畑地、草地として利用されているが一部山林となつている。

C 地力保全上の問題点

表土の腐植含量が一般に少ないので堆肥等有機物施用が必要で、また酸度が強いので酸性矯正が必要である。一般に加里含量に乏しいので加里肥料の増肥を要する。

D 分布

北海道紋別郡遠軽町字白滝・弥生・向遠軽の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和44年3月31日

### 3 保全対策地区及び説明

#### 1) 保全対策地区の説明

土壌断面の特徴及び対策等を考慮して次の保全対策地区を設定した。

〔水田〕

保全対策地区名	該当土壌区	面積 (ha)	主 な 特 徴	重要な保全対策
豊里地区	豊里	302	加里不足、鉄分の不足 排水不良	加里肥料の増施、含鉄資材の投入、排水完備
清川東地区	清川東	158	加里不足	加里肥料の増施

〔畑〕

保全対策地区名	該当土壌区	面積 (ha)	主 な 特 徴	重要な保全対策
弥生地区	千代田西 白竜 弥生 柏	167	浅表土、浅土層、丘陵性傾斜地。下層堅密・礫層、下層強酸性・強粘質(千代田西・弥生) 礫多し(千代田西)	深耕、有機物・土改資材の施用。心土破碎、除礫 保全耕作
向遠軽地区	向遠軽	15	塩基稍不足、作土やや浅い	深耕、合理的施肥
若咲内地区	学田 弥生東 若咲内-1 "-2	585	排水稍不良、塩基稍不足、下層堅密又は礫層強粘質(学田)浅表土(学田、若咲内-2)浅土層と傾斜地(若咲内-2)	排水完備、合理的施肥、心土破碎、深耕、有機物施用、保全耕作、除礫。
福路地区	福路-1 "-2 遠軽中央 湯の里	1,280	作土が浅い。浅土層。地表に礫多い(湯の里)	深耕 客土 } 有機物施用、土改 除礫 } 資材の投入
留岡地区	留岡 隠沢	138	排水不良、加里不足。腐植が少ない(隠沢)	排水完備、加里肥料の増施、有機物施用
社名淵地区	社名淵 栄野 弥生西	693	丘陵性傾斜地。加里不足(社名淵・栄野)腐植が少ない(栄野) 作土浅く下層強酸性(弥生西)	深耕、有機物施用、土改資材の投入。加里の増施 酸性矯正、保全耕作
千代田地区	千代田	23	排水稍不良、下層堅密傾斜地	排水完備、心土破碎、深耕、有機物施用、保全耕作
清川地区	清川 奥社名淵	247	傾斜地、浅表土、浅土層加里不足、礫多い(清川)強酸性(奥社名淵)	酸性矯正、除礫、深耕、有機物施用、加里の増施 保全耕作

保全対策地区名	該当土壌区	面積 (ha)	主な特徴	重要な保全対策
見晴地区	見 晴	24	強粘質、有効態磷酸に乏しい。	磷酸肥料の増施、有機物施用

## 2) 保全対策地区別説明

### <豊里保全対策地区>

#### (1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
紋別郡遠軽町	302	豊里-豊里

#### (2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

##### ① 特徴と問題点

本地帯は稲作限界地帯で気温低く、初期生育不良と生育遅延の傾向をたどることが多く、盛夏の障害型低温と秋期の早霜による大きな被害を受けることがしばしばあり、気象的災害の危険性をはらんでいる。これらの気象的災害を軽減もしくは回避して安全確収を得るのが従来からの課題であると共に当面の問題である。このため品種の撰択、健苗育成、初期生育促進のための施肥技術、稚苗に対する低温の影響の回避技術の確立が必要になる。

土壌は下層堅密で排水不良であり、一般に還元化の進みやすい土壌のため排水の励行が必要で、また加里の増施、含鉄資材の投入が必要である。

##### ② 営農の方向

本地区はその経営内容が水稻作に畑作と家畜導入を加えた多角経営をはかり、気象災害による影響を軽減せしめて経営の安定化を期そうとしてきているが、今後もこの方向を更に推進することが望ましいと考えられる。

#### (3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対施の面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
排水	豊里-豊里	明、暗渠の完全実施	工事費の助成
施肥の合理化	"	加里の増施、含鉄資材の投入	指導の徹底
健苗育成	"	気象災害回避のためと初期生育促進のための健苗育成技術の向上 品種の選択	"

< 清川東 保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備考 (該当土壌区名)
紋別郡遠軽町	158	清川東 - 清川東

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

豊里保全対策地区と同様な気象条件下にある。従つて前区と同じく品種の選択、健苗の育成、初期生育の促進と生育中期の低温による被害を回避する技術の向上が重要事項となる。土壌は加里が不足しているので加里の増施が必要である。

② 営農の方向

前区同様に家畜導入による多角経営を今後も推進することが望ましい。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対施の面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具 の種類、型式、数量
施肥の合理化	清川東 - 清川東	加里の増施	指導の徹底
健苗育成	"	気象災害回避と初期育成促進のための健苗育成技術の向上。品種の選択	"

< 彌生 保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
紋別郡遠軽町	167	千代田西 - 千代田西 白 竜 - 白 竜 弥 生 - 弥 生 柏 - 柏

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

いずれも丘陵地に分布にし、表土と有効土層は浅い。腐植は概ね5~8%で保水性稍強いが透水性は中庸である。一般に次層以下が強酸性を呈する場合が多く、有効態磷酸、置換性加里に欠乏しやすい。本地区は傾斜地であり、下層が堅密あるいは礫層で水触のおそれのあるところが多い。

② 営農の方向、その他

一般に畑作と酪農の混同経営が営まれている。土壌的にみて有機物の施用をはかることが望ましく、更に有畜化を推進していくべきと考える。



(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対施の面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具 の種類、型式、数量
深耕と有機物施用	千代田西-千代田西 白 竜-白 竜 弥 生-弥 生 柏 - 柏	有機物を施用しながら 漸次深耕して行く(千 代田西、弥生は下層の 酸性改良をあわせて実 施)	トラクター導入助成
保 全 耕 作	同 上	牧草作付の増大、緑作 帯の設置	
除 礫	千代田西-千代田西	地表に中~巨礫のある ところは除礫する	ストーン・ピッカー 事業費助成
心 土 破 碎	弥 生-弥 生	4.5~5.5cmのところ を破碎	工事費の補助又は融資

< 向 遠 軽 保 全 対 策 地 区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	面 積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
紋別郡遠軽町	15	向遠軽-向遠軽

(2) 保全対策地区の特徴と表力保全上の問題点

① 特徴と問題点

湧別川と他の小河川との合流点に近く、沖積地に挟まれた台地の末端部に分布している。透水性  
良く土壌的に特に大きな問題はないが、作土層浅く、下層は強酸性で有効態磷酸少なく、また塩基  
に乏しい未飽和な土壌である。

② 営農の方向、その他

本地区は豆類、馬鈴薯、てん菜等を主とする畑作が中心であるが、やはり家畜を導入し、有畜化  
を促進して行く事が望ましいと思われる。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対施の面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具 の種類、型式、数量
深 耕	向遠軽-向遠軽	有機物、炭カル、熔燐等を施 用しつつ漸次深耕	
合理的施肥	同 上	加里の増施	

<若咲内保全対策地区>

(1) 分布状況

郡 市 町 村 名	面 積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
紋別郡遠軽町	585	学田-学田 弥生東-弥生東 若咲内- 1 " - 2

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

標高100～150m(一部250m)の緩斜面を有する洪積台地に分布している。いずれも排水不良を呈し、下層は堅密で、礫層が極めて浅いところが多い。また傾斜の強いところでは水蝕も認められており、養分では加里、磷酸に乏しいところが多い。

② 営農の方向、その他

概ね畑作と酪農の混同経営が行なわれており、今後も更に畜化を推進し、かつ傾斜の強いところは極力草地として利用することが望ましい。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対施の面積(ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
排水	全区	明渠の完全実施	工事費の助成
保全耕作	弥生東-弥生東 若咲内- 1 " - 2	草地面積の拡大 緑作帯の設置	指導の徹底
深耕と有機物施用	学田-学田 弥生東-弥生東 若咲内- 1	有機物、炭カル、燐等 を施用しつつ漸次深耕	"
心土破砕	学田-学田 弥生東-弥生東	50～60cmを心土破砕 する	事業費の補助
合理的施肥	全区	加里、磷酸の増施	指導の徹底
除礫	若咲内- 2	中礫以上の礫を除く	"

<福路保全対策地区>

(1) 分布状況

郡 市 町 村 名	面 積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
紋 別 郡 遠 軽 町	1,280	福 路 - 1 " - 2 遠軽中央 - 遠軽中央 湯 の 里 - 湯 の 里

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

湧別川及びその支流に広く分布する沖積地帯であつて、地表から礫が出現している。また下層は礫層よりなるところが多く有効土層が浅く、局部的に旱害を受けるおそれのあるところである。作土層も一般に浅い。

② 営農の方向、その他

一部に混同経営がなされている所もあるが概ね畑作が主体であつて、最近はソ菜の作付も増えている傾向である。土壌的に有機物の施用を図ることが望ましく、有畜化を推進すべきであろう。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対施の面積 (ha)	実 施 方 法	対策資材及び機械器具の積類、型式、数量
深 耕	福路 - 1、- 2	有機物及び炭カル等を施用し つつ漸次深耕する	指導の徹底
客 土	遠軽中央 - 遠軽中央	粘質土の客入	事業の補助
除 礫	湯の里 - 湯の里	中礫以上を除礫	ストンピツカー
合理的施肥	福路 - 1、- 2	加里、磷酸、苦土を増施	指導の徹底

< 留 岡 保 全 対 策 地 区 >

(1) 分布状況

郡 市 町 村 名	面 積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
紋 別 郡 遠 軽 町	138	留 岡 - 留 岡 隠 沢 - 隠 沢

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

主として社名淵川流域に分布する沖積地で地下水位の影響で湿性を呈する。土壌的には加里が少くない他は概ね良好である。

② 営農の方向、その他

暗渠排水未施行のところは早急に実施することが必要で、暗渠排水施行地内においても弱湿性を呈しているところが多いので補設暗渠の実施が望ましく、また留岡 - 留岡においては心土破碎も有効と考えられる。

主として混同経営が営まれており、今後も一層有畜化を推進して行くべきと考える。養肥分では

加里の施用に重点を置くこと。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対策地及び対施の面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の積類、型式、数量
排水	全区	暗渠排水 (未実施地) 既に実施しているところは 補説暗渠の実施	工事費の補助
心土破碎	留岡-留岡	60cm程度まで心土破碎	事業費の補助
有機物施用	全区	推厩肥の増産	指導の徹底
施肥の合理化	留岡-留岡	加里に重点を置く	"

< 社名淵保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
紋別郡遠軽町	693	社名淵-社名淵 栄野-栄野 弥生西-弥生西

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

本地区は主に湧別川と社名淵川に挟まれた丘陵地に分布している。概ね有効土層が浅く、下層は玄武岩・安山岩・凝灰岩・砂岩等の角~半角礫の礫層である。殆んど傾斜地で侵蝕のおそれがある。

② 営農の方向、その他

主として混同経営が営まれており、土壌保全の面からも今後更に草地面積の拡大と有畜化を推進していくことが望ましい。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対施の面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の積類、型式、数量
保全耕作	全区	牧草面積の拡大 緑作帯の設置	指導の徹底
深耕	社名淵-社名淵 栄野-栄野	有機物、土改資材施用と共に 漸次深耕	"
合理的施肥	同上	加里の増施	"
酸性矯正	弥生西-弥生西	耕起時又は牧草更新時に炭カ ル施用	" 200~400Kg/10a

< 千代田保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡 市 町 村 名	面 積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
紋別郡遠軽町	23	千代田 - 千代田

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全力の問題点

① 特徴と問題点

25cm前後より極めて堅く、排水状態稍不良を示し、細流侵蝕が認められる。暗渠排水未施行のところがあるので早急に施行する事が望ましい。その際心土破碎を合わせて行なうとより有効と考えられる。養分分では特記するものはないが下層は磷酸・加里に乏しいので、深耕とかトラクター耕で深く耕起された場合には、これらを増量することが望ましい。

② 営農の方向、その他

主として混同経営であり、今後も更に推進することが土壌保全の面からも望ましい。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対施の面積 (ha)	実 施 方 法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量
排 水	千代田 - 千代田	暗渠排水の完備	工事費の助成
心土破碎	同 上	50cm程度まで心土破碎	"
保全耕作	同 上	草地面積の拡大 緑作帯の設置	指導の徹底
深耕	同 上	有機物施用と共に漸次深耕 (施肥量は増量する)	

< 清川保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡 市 町 村 名	面 積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
紋別郡遠軽町	247	清 川 - 清 川 奥社名淵 - 奥社名淵

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

本地区は丘陵地を開析する小谷と低平地との接触部に分布する扇状地で一般に土層が浅く、作土層も浅い。また表土から角~半角礫が多いところが多く、農耕作業に大きな障害となっており、水蝕も認められる。土壌的には養分分は加里の不足しているところがあり、一般に磷酸も少ない。また極めて強い酸性を呈する。

② 営農の方向、その他

概ね混同経営が営まれている。今後も更に有畜化を推進することが望ましい。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対施の面積 (ha)	実 施 方 法	対策資材及び機械器具の積類、型式、数量
保全耕作	全 区	草地面積の拡大	指導の徹底
除  礫	清川-清川	中礫以上の除礫	ストンピッカー
酸性矯正	奥社名淵-奥社名淵	炭カルの施用	400~500kg/10a
深耕	同 上	有機物を施用しつつ漸次深耕	指導の徹底
合理的施肥	全 区	加里の増施	＃

< 見 晴 保 全 対 策 地 区 >

(1) 分布状況

郡 市 町 村 名	面 積 (ha)	備 考 (該当土壌区)
紋別郡速軽町	24	見晴-見晴

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

本地区は丘陵地と低平地との接触部で社名淵川中流域に分布する扇状地である。母材は玄武岩で暗赤褐色を呈する。強粘質な土壌であるが透水性は大で、水蝕のおそれはない。養肥分は概ね良好であるが表土の有効磷酸が極めて少ない。

② 営農の方向、その他

概ね混同経営主体の地帯であるが、本地区は殆んど畑地として利用されているが有機物施用につとめることが望ましい。

(3) 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対施の面積 (ha)	実 施 方 法	対策資材及び機械器具の積類、型式、数量
合理的施肥	見 晴 - 見 晴	磷酸の増施	指導の徹底
有機物施用	同 上	堆厩肥の増産	＃

(水田)

## 土 壤 分

保 全 对 策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学 性										現地における理学性				
					礫 (風 乾物 中) %	風 乾 細 土 中		細 土 無 機 物 中					土 性	1 0 0 cc 溶 中					
						水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シ ル ト %	粘 土 %		客 積 重 g	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc	空 気 容 積 cc	孔 隙 率 %	
豊 里 保 全 对 策 地 区	豊	32	1	0~12		4.1	5.7	5.2	23.7	28.9	32.6	38.5	LiC	143					
			2	12~17		3.5	4.5	5.6	25.7	31.3	30.2	38.5	LiC	171	47	47	6	53	
			3	17~30		2.6	1.5	5.9	41.1	47.0	26.5	26.5	LiC	183	56	35	9	44	
			4	30~51		2.4		9.0	36.7	45.7	32.9	21.4	CL						
			5	51~67		3.2		12.0	31.0	43.0	30.1	29.9	LiC						
	里	31	1	0~12		4.6	6.2	1.0	20.2	21.2	35.9	42.9	LiC						
			2	12~18		5.7	5.6	7.5	35.2	42.7	36.8	20.5	CL						
			3	18~34		5.1	2.1	1.6	6.9	8.5	28.9	62.6	HC						
			4	34~50		5.3		2.3	7.0	9.3	31.9	58.8	HC						
			5	50~66															
清 川 策 東 地 保 区 全	清 川 東	33	1	0~15		2.7	6.2	12.0	34.0	46.0	25.1	28.9	LiC	154	39	57	4	61	
			2	15~20		5.1	5.7	14.7	33.9	48.6	24.9	26.5	LiC	154	43	47	11	58	
			3	20~34		2.0	1.7	16.9	49.8	66.7	19.6	13.7	SL	169	49	41	10	51	
			4	34~49		1.3		11.3	65.5	76.8	14.1	2.1	SL	167	49	35	16	51	

# 析 成 積

化 学 性																	
PH		置 換 酸 度 Y1	有 機 物			塩 置 換 容 基 量 me/ 100g	置 換 性 塩 基 mg/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 數	乾 土 効 果	30℃ NH <sub>3</sub> -N 發生量		有 効 態 mg/100g		遊 離 酸 化 鐵 %
			※ T-C %	※ T-C %	C /N		Ca	Mg	K <sub>2</sub> O				乾 土	濕 土	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	N	
5.2	4.3	5.0	3.45	0.343	10.1	20.7	280.0	24.2	7.5	48	1004		16.5		34.4		0.73
5.3	4.4	3.3	2.70	0.264	10.2	18.4	263.2	24.2	5.2	51	1036		14.0		17.0		1.04
5.2	3.9	17.8	0.30	0.047	6.3	12.9	123.2	8.0	4.2	34	593				2.7		
6.0	3.7	18.5				14.9	123.2	32.2	5.6	30	535				2.9		
6.3	3.6	13.0				15.3	190.4	48.4	5.6	44	596				3.7		
5.5	4.2	5.8	3.70	0.371	10.2	23.5	257.6	8.0	6.6	39	1067		23.3		22.4		1.26
5.7	4.5	1.5	3.45	0.375	9.2	23.1	319.2	20.1	6.6	49	1079		21.5		18.0		1.17
5.2	3.8	17.3	1.29	0.211	6.1	10.4	224.0	36.2	8.5	77	1073				7.4		
5.5	3.7	22.0				9.8	190.4	48.3	8.5	69	1037				7.4		
															tr		
5.5	4.4	3.3	3.70	0.336	11.0	26.7	350.0	16.1	8.5	47	1110		10.9		15.4		1.54
5.5	4.7	0.8	3.49	0.309	11.3	29.1	467.6	20.1	14.6	57	1074		11.9		tr		2.17
5.9	4.8	0.5	1.01	0.118	8.5	14.5	266.0	4.0	18.3	66	723				2.0		
6.1	4.7	0.5				11.0	210.0	8.0	14.1	68	577				1.8		



( 畑 )

保 全 对 策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 位	深 さ cm	理 学 性							土 性	現地における理		
					風乾細土中			細土無機物中					容 積 量 %	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc
					水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シル ト %	粘 土 %				
彌 生 保 全 对 策 地 区	千代 田西	25	1	0~20	5.1	7.0	10.5	24.0	34.5	40.3	25.2	Li c	124	32	46
			2	20~37	6.1	—	10.9	22.6	33.5	34.3	32.2	Li c	153	39	45
			3	37~70	8.5	—	11.2	27.9	39.1	29.0	31.9	Li c	153	35	49
			4	70~100	9.0	—	34.1	21.4	55.5	18.4	26.1	SC			
	白竜	1	1	0~15	3.0	3.4	13.3	34.5	47.8	34.3	17.9	CL			
			2	15~47	4.6	—	19.0	36.4	55.4	29.7	14.7	L			
	彌生	11	1	0~14	4.1	5.3	8.5	29.1	37.6	36.5	25.9	Li c			
			2	14~29	2.8	—	8.5	30.1	38.6	36.7	24.7	CL			
			3	29~44	4.1	—	12.8	31.3	44.1	32.2	23.7	CL			
			4	44~	4.3	—	15.9	34.2	50.1	33.7	16.2	CL			
	柏	22	1	0~15	3.2	7.1	16.1	31.6	47.7	32.7	19.6	CL	143	40	42
			2	15~34	2.9	—	22.2	29.7	51.9	26.2	21.9	CL			
向 遠 軽 保 全 对 策 地 区	向 遠 軽	9	1	0~17	4.4	6.0	5.2	32.0	37.2	39.0	23.8	CL			
			2	17~47	6.3	3.2	4.3	29.9	34.2	33.2	32.6	Li c			
			3	47~63	7.3	—	14.6	55.2	69.8	24.0	6.2	SL			
			4	63~	7.0	—	13.8	45.0	58.8	32.9	8.3	L			
若 咲 内 保 全 对 策 地 区	学 田	30	1	0~15	4.5	12.1	8.1	29.0	37.1	35.1	27.8	Li c			
			2	15~24	2.4	0.8	8.7	23.7	32.4	41.3	26.3	Li c			
			3	24~38	3.6	—	3.2	20.0	23.2	41.0	35.8	Li c			
			4	38~60	3.8	—	6.3	18.2	24.5	34.3	41.2	Li c			
	若 咲 内 — 1	20	1	0~17	3.6	4.0	11.8	27.1	38.9	36.2	24.9	CL			
			2	17~40	3.0	—	17.9	31.8	49.7	33.5	16.8	CL			
			3	40~60	3.0	—	15.8	34.9	50.7	34.2	15.1	CL			
若 咲 内 — 2	19	1	0~17	3.5	4.3	13.9	29.9	43.8	31.5	24.7	CL				

学性 100 溶中		化 学 性													
空 气 容 积 cc	孔 隙 率 %	PH		置 换 酸 素 Y <sub>1</sub>	有 機 物			塩置 換 容 基 量 me/ 100g	置 換 性 塩 基 mg/100 g			塩 基 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 数	有 效 態 mg/ 100g P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	
		H <sub>2</sub> O	Kcl		※	※			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O				
		T-C %	T-N %		C/N										
22	68	5.5	4.8	1.5	4.28	0.342	12.5	31.8	403.2	100.8	21.6	45	1111	tr	
17	62	5.6	3.9	40.8	—	—	—	26.9	142.8	56.4	31.0	19	1359	tr	
16	65	5.1	3.9	46.8	—	—	—	28.0	126.0	34.3	35.3	16	1555	tr	
		5.1	4.0	43.0	—	—	—	28.5	128.8	100.8	10.3	16	1585	tr	
		5.3	4.5	1.5	2.03	0.214	9.5	16.6	263.2	24.2	20.2	57	609	4.1	
		5.7	4.5	1.0	—	—	—	17.8	347.2	66.5	18.3	70	855	8.0	
		5.6	4.3	4.0	3.20	0.238	13.5	21.9	282.8	50.4	14.1	46	870	10.0	
		5.2	3.9	27.3	—	—	—	16.9	78.4	82.3	8.5	17	934	tr	
		5.5	3.9	32.0	—	—	—	16.0	92.4	18.1	7.5	21	812	tr	
		5.5	3.6	17.5	—	—	—	21.3	271.6	119.0	9.9	46	814	12.1	
18	60	5.5	4.9	0.8	4.26	0.335	12.7	34.6	436.8	26.2	21.6	45	739	7.0	
		5.6	4.5	3.0	—	—	—	15.3	196.0	50.4	10.3	46	973	tr	
		6.3	5.4	0.3	3.64	0.308	11.8	27.4	571.2	78.6	45.1	74	1027	21.3	
		5.2	4.1	9.5	1.98	0.222	8.9	20.8	159.6	18.1	23.5	27	1421	1.7	
		5.2	4.3	6.5	—	—	—	21.3	95.2	12.1	50.3	16	1854	tr	
		5.5	4.4	3.3	—	—	—	18.8	159.6	54.4	31.0	30	1451	tr	
		5.6	4.4	3.4	7.33	0.512	14.4	34.0	288.4	74.6	24.0	30	1066	tr	
		5.8	3.8	17.3	0.48	0.061	8.0	13.8	109.2	68.5	4.7	28	686	tr	
		5.9	3.6	27.8	—	—	—	18.2	154.0	98.7	5.6	30	751	5.0	
		5.8	3.6	26.0	—	—	—	18.2	179.2	143.1	6.1	35	723	2.1	
		6.0	5.3	0.5	2.41	0.239	10.1	18.2	355.6	20.7	6.1	70	923	18.7	
		5.5	4.3	5.3	—	—	—	11.6	126.0	38.3	4.2	39	765	tr	
		5.4	4.1	7.0	—	—	—	12.2	126.0	60.5	7.5	37	690	tr	
		5.1	4.2	4.5	2.49	0.269	9.3	17.8	210.0	18.1	9.9	42	650	7.5	

保全対策区	土壌区	地点番号	層位	深さ cm	理 学 性						土性	現地における理			
					風乾細土中			細土無機物中				容積重 g	固相容積 cc	水分容積 cc	
					水分 %	腐植 %	粗砂 %	細砂 %	砂合計 %	シルト %					粘土 %
彌生東	13	1	0~18	4.9	7.7	7.5	23.9	31.4	38.2	30.4	Lic				
		2	18~25	5.8	2.9	12.2	21.0	33.2	36.4	30.4	Lic				
		3	25~52	4.8	—	17.6	18.9	36.5	34.6	28.9	Lic				
		4	52~62	5.4	—	7.9	19.9	27.8	30.4	41.8	Lic				
福路保全対策地区	福路	8	1	0~20	3.2	5.4	8.4	40.9	49.3	28.2	22.5	CL			
			2	20~50	2.7	1.1	12.5	56.1	68.6	19.7	11.7	SL			
	—2	18	1	0~20	2.1	4.6	10.8	38.6	49.4	30.7	19.9	CL			
			2	20~34	1.6	2.6	10.6	39.3	49.9	29.9	20.2	CL			
			3	34~50	—	—	29.3	43.8	73.1	21.3	5.6	SL			
	福路	17	1	0~15	2.8	7.4	13.1	32.0	45.1	32.0	22.9	CL			
			2	15~40	1.9	5.3	6.7	40.4	47.1	29.0	23.9	CL			
	—2	15	1	0~16	4.6	8.5	14.0	42.6	56.6	15.0	28.4	SC			
			2	24~32	3.4	2.8	20.4	50.4	70.8	20.1	9.1	SL			
	速軽	10	1	0~17	2.4	2.7	42.3	32.7	75.0	14.5	10.5	SL			
			1	0~18	2.5	2.9	17.1	53.6	70.7	17.9	11.4	SL			
		14	2	18~32	2.2	1.5	12.1	64.4	76.5	16.2	7.3	SL			
			7	1	0~17	5.8	3.8	37.6	24.4	62.0	19.0	19.0	SCL		
		湯の里	3	1	0~23	5.4	7.7	20.2	27.8	48.0	26.0	26.0	Lic		
2	23~38			5.1	3.2	24.1	28.5	52.6		21.4	CL				
5	1		0~20	6.4	7.7	11.3	24.8	36.1	28.7	35.2	Lic				
留岡保全	留岡	29	1	0~15	5.9	4.1	4.1	30.4	34.5	33.4	32.1	Lic	154	39	55
			2	15~29	—	2.7	5.4	24.7	30.1	31.3	38.6	Lic	138	32	55
			3	29~45	6.6	1.8	5.7	23.9	29.6	33.6	36.8	Lic	150	35	55
			4	45~68	6.2	—	4.0	13.0	17.0	35.7	47.3	HC			
		24	1	0~18	2.8	3.4	40.3	32.9	73.2	16.4	10.4	SL	14.6	46	34

学性		化 学 性												
100 溶中		P H		置 換 酸 素 Y 1	有 機 物			塩 置 換 容 基 量 me/ 100 g	置 換 性 塩 素 mg/100 g			塩 基 飽 和 度 %	磷 酸 吸 收 係 數	有效態 mg/ 100 g  P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>
空 氣 容 積 cc	孔 隙 率 %	H <sub>2</sub> O	Kcℓ		※ T-C %	※ T-N %	C/N		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
		5.4	4.6	1.4	4.70	0.393	12.0	25.2	392.0	50.4	18.8	5.6	8.77	4.2
		5.3	3.9	1.8	1.78	0.177	10.0	19.1	165.2	20.2	8.5	3.1	8.90	7.2
		5.5	3.9	2.08	—	—	—	18.5	151.2	66.5	9.9	2.9	8.57	8.0
		5.4	3.7	3.30	—	—	—	25.1	210.0	84.7	16.9	3.0	9.77	tr
		5.6	4.4	3.3	3.23	0.290	11.1	23.3	271.6	12.1	20.7	4.2	8.62	15.7
		5.5	4.0	1.38	0.66	0.077	8.5	10.9	95.2	2.0	12.2	3.1	3.57	1.6
		5.8	5.0	0.5	2.73	0.254	10.7	21.9	436.8	26.2	13.2	7.1	6.69	3.20
		5.3	4.4	2.6	1.53	0.164	9.4	15.9	232.4	26.2	5.6	5.2	7.57	6.5
		5.2	4.3	7.0	—	—	—	10.4	70.0	22.1	5.6	2.4	8.34	6.0
		5.5	4.8	1.0	4.41	0.425	10.4	26.3	453.6	30.2	21.6	6.2	8.53	12.8
		5.5	4.5	3.0	3.13	0.242	13.0	18.6	238.0	52.4	8.0	4.6	10.24	tr
		5.5	4.7	1.5	5.17	0.404	12.8	10.9	81.2	14.1	7.5	2.7	12.48	4.2
		5.8	5.1	0.5	1.68	0.167	10.1	24.1	380.8	34.3	36.7	5.6	11.96	tr
		5.9	4.3	3.4	1.61	0.151	10.7	21.9	9.4	1.4	35.7	4.3	6.87	2.21
		5.5	4.9	0.6	1.72	0.190	9.1	19.5	355.6	20.2	84.1	6.5	6.30	6.72
		6.1	5.4	0.3	0.89	0.102	8.7	23.1	215.6	36.3	42.3	3.3	5.90	3.27
		6.0	4.9	0.4	2.34	0.251	9.3	27.7	512.4	42.3	17.4	6.6	11.20	6.4
		5.8	5.0	0.6	4.72	0.253	18.7	34.0	638.4	92.7	27.7	6.7	10.18	14.7
		5.8	4.6	1.1	1.96	0.262	7.5	26.6	434.0	100.8	16.9	5.8	10.73	1.7
		6.5	5.6	0.4	4.77	0.448	10.7	36.2	26.8	123.0	83.2	7.4	12.35	3.60
6	6.1	5.5	4.5	1.3	2.53	0.292	8.7	30.2	504.0	130.0	11.3	6.0	11.42	9.4
13	6.8	5.7	4.7	1.0	1.68	0.199	8.4	32.3	484.4	118.9	17.9	5.4	11.88	7.3
10	6.5	6.0	4.7	0.4	0.111	0.150	7.4	32.0	512.4	137.0	24.4	5.7	13.35	8.6
		6.0	4.2	5.5	—	—	—	35.4	529.2	54.4	21.6	5.3	13.56	tr
20	5.4	5.6						27.1	414.4	20.1	36.2	5.5	6.50	3.66

保全対策区	土壌区	地点番号	層位	深さ cm	理 学 性							土性	現地における理		
					風乾細土中			細土無機物中					容積重 g	固相容積 cc	水分容積 cc
					水分 %	腐植 %	粗砂 %	細砂 %	砂合計 %	シルト %	粘土 %				
対策地区	隠沢	21	2	18~	2.1	1.0	37.9	45.5	83.4	9.1	7.5	S L	140	39	45
			1	0~20	3.2	4.2	20.5	28.5	49.0	23.4	27.5	LiC	159	45	46
			2	20~38	1.9	—	47.3	29.0	76.3	16.1	7.6	S L	162	47	37
		26	1	0~15	4.0	4.7	21.7	32.4	54.1	28.7	17.2	C L	149	44	43
			2	15~30	2.9	—	35.5	32.5	68.0	20.6	11.4	S L	152	43	44
社名淵保全対策地区	栄野	23	1	0~16	2.3	3.3	43.3	19.8	63.1	25.4	11.5	L			
			2			—	34.4	23.8	58.2	33.5	8.3	L			
		27	1	0~20	3.1	7.1	22.2	34.4	56.6	31.5	11.9	L	114	32	35
			2		1.7	—	32.9	32.0	64.9	23.9	11.2	L	145	44	33
	弥生西	12	1	0~15	6.6	5.8	22.7	25.8	48.5	29.0	22.5	C L			
			2	15~	10.7	—	31.6	26.2	57.8	20.3	21.9	C L			
社名淵	6	1	0~16	5.9	7.8	14.0	30.1	44.1	30.	24.3	C L				
		2	16~37	5.4	3.3	17.5	33.4	50.9	35.1	14.0	L				
千代田保全対策地区	千代田	4	1	0~24	5.3	5.4	16.0	23.9	39.9	29.0	31.1	LiC			
			2	24~	3.8	—	36.8	23.2	60.0	24.1	15.9	C L			
清川保全対策地区	清川	16	1	0~15	4.6	8.4	23.4	25.4	48.8	23.9	27.3	LiC			
			奥社名淵	2	1	0~15	4.3	3.8	16.5	29.9	46.4	32.3	21.3	C L	
	2	2		15~25	3.6	1.6	15.8	30.4	41.2	32.9	20.9	C L			
3		25~		5.6	—	20.5	34.8	55.3	28.0	16.7	C L				
見晴保全対策地区	見晴	28	1	0~23	6.4	4.6	9.3	25.3	34.6	31.5	33.9	LiC	175	34	51
			2	23~46	6.9	3.2	6.4	23.5	29.9	30.2	39.9	LiC	148	38	48
			3	46~	6.6	—	25.3	32.4	57.7	21.4	20.9	C L	162	43	48

※ 乾土当り

学性		化 学 性													
100 溶中		P H		置換酸度 Y <sub>1</sub>	有 機 物			塩置換容量 me/100g	置換性塩基mg/100g			塩基飽和度 %	磷酸吸收係數	有効態 P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> mg/100g	
空氣容積 cc	孔隙率 %	H <sub>2</sub> O	Kcℓ		※ T-C %	※ T-N %	C/N		CaO	MgO	K <sub>2</sub> O				P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>
16	61	6.4	4.8	0.8	0.59	0.075	8.0	10.1	207.2	12.1	23.0	73	533	3.7	
9	55	5.7	4.9	0.6	2.52	0.272	9.3	23.0	369.6	52.4	26.3	57	805	21.9	
16	53	5.6	4.8	0.5	—	—	—	11.2	184.8	36.3	6.1	59	457	t r	
13	56	5.3	4.7	1.3	2.84	0.280	10.2	16.7	274.4	22.2	21.6	59	1003	3.5	
13	57	5.9	4.4	5.5	—	—	—	11.9	117.6	18.1	7.5	35	1011	2.0	
		5.9	5.1	3.0	1.96	0.175	11.3	13.1	221.2	10	5.6	60	609	4.1	
		5.8	4.6	—	—	—	—	9.3	84.0	22.2	12.7	36			
33	68	5.7	4.8	0.9	4.25	0.306	13.9	20.0	310.8	14.1	16.5	56	747	2.3	
23	56	5.3	4.3	3.8	—	—	—	8.7	84.0	30.2	8.5	34	513	t r	
		5.5	4.2	5.5	3.60	0.287	12.5	26.3		54.4	36.7	41	1248	3.0	
		5.0	4.0	30.5	—	—	—	26.6	176.4	62.5	96.4	24	1595	8.1	
		5.9	0.9	0.5	4.66	0.412	11.3	34.6	646.8	46.4	16.9	67	1121	28.9	
		6.1	4.6	1.4	2.02	0.408	5.0	26.1	319.2	54.4	16.9	44	142	4.2	
		6.1	5.5	0.5	3.31	0.332	10.0	27.2	557.2	34.3	23.5	73	920	26.6	
		5.3	4.4	2.0	—	—	—	16.0	184.8	18.1	8.9	41	724	t r	
		5.6	4.9	0.6	5.10	0.456	11.7	28.4	753.2	98.8	31.0	95	1101	6.7	
		5.0	3.9	15.5	2.30	0.245	9.4	20.0	165.2	34.3	12.7	30	779	2.9	
		5.6	4.0	15.8	0.96	0.128	7.6	18.4	193.2	62.5	7.5	38	903	2.1	
		5.3	4.0	14.5	—	—	—	23.5	263.2	108.9	10.8	40	1038	t r	
15	66	5.6	4.6	1.0	2.85	0.319	8.9	47.8	938.0	102.8	47.5	70	1314	t r	
14	62	5.9	4.8	0.6	1.99	0.27	7.9	50.2	1010.8	149.2	17.4	72	1469	17.6	
9	57	6.4	3.9	0.5	—	—	—	50.3	915.6	14.1	82.3	65	1483	24.4	